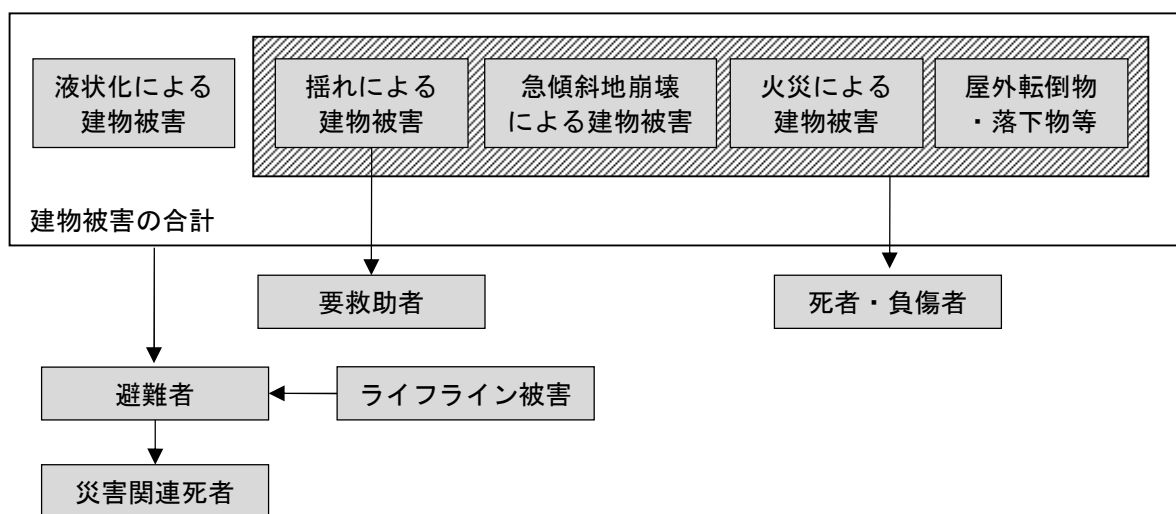


## 2. 人的被害想定（想定手法、結果）

人的被害として、建物倒壊や急傾斜地崩壊、火災、屋外転倒物・落下物等による死者数、負傷者数、重傷者数、揺れによる建物倒壊に伴う要救助者数、避難者数及び災害関連死者数を想定した。なお、液状化による建物被害は、建物がゆっくりと傾くあるいは沈下することから避難が可能とみなし、液状化による人的被害は算出していない。

### 2.1 人的被害全体の想定の流れ



図Ⅲ.2-1 人的被害想定フロー

### 2.2 基礎資料

人口基礎データを作成するため、表Ⅲ.2-1に示す資料を収集した。これらの基礎資料を使用して求めた滞留人口を表Ⅲ.2-2、図Ⅲ.2-2に示す。

表Ⅲ.2-1 人口の基礎資料

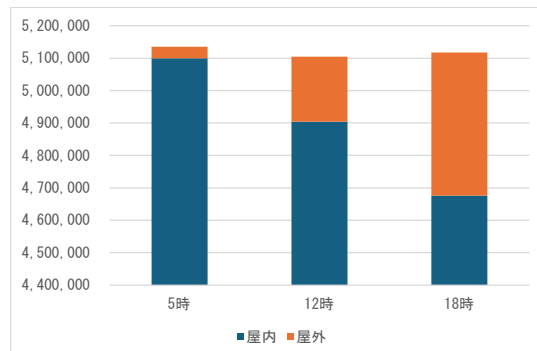
項目	出典	作成時期
夜間人口分布	国勢調査	2020年
昼間人口分布	平成27年国勢調査_平成26年経済センサス_基礎調査リンク結果	2015年
時刻別滞留人口内訳	社会生活基本調査	2011年
市区町村別常住人口	福岡県住民基本台帳	2024年11月
市区町村別昼間人口	国勢調査	2020年

第Ⅲ編 被害想定

2.人の被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ.2-2 時刻別滞留人口内訳

市区町村	滞留人口 (人)			市区町村	滞留人口 (人)		
	5時	12時	18時		5時	12時	18時
北九州市	936,360	920,142	926,629	宮若市	26,325	34,937	31,492
門司区	93,981	89,096	91,050	嘉麻市	35,763	31,449	33,175
若松区	80,482	81,159	80,888	朝倉市	50,256	56,543	54,028
戸畑区	57,810	57,077	57,370	みやま市	35,670	33,389	34,301
小倉北区	181,395	215,493	201,854	糸島市	100,206	88,390	93,116
小倉南区	210,311	188,428	197,181	那珂川市	51,037	46,789	48,488
八幡東区	65,377	68,269	67,112	宇美町	36,800	30,044	32,747
八幡西区	247,005	220,620	231,174	篠栗町	30,240	25,967	27,676
福岡市	1,609,206	1,674,545	1,648,409	志免町	45,144	45,405	45,301
東区	323,044	275,684	294,628	須恵町	28,860	36,532	33,463
博多区	248,351	350,030	309,358	新宮町	33,740	45,563	40,834
中央区	203,035	317,321	271,607	久山町	9,234	14,089	12,147
南区	270,721	226,282	244,057	粕屋町	50,414	65,035	59,187
西区	211,670	165,351	183,879	芦屋町	13,920	10,218	11,698
城南区	131,135	105,626	115,830	水巻町	29,023	33,447	31,678
早良区	221,251	234,251	229,051	岡垣町	31,101	24,220	26,972
大牟田市	111,393	108,881	109,886	遠賀町	18,362	18,798	18,624
久留米市	303,428	292,849	297,081	小竹町	7,152	7,452	7,332
直方市	56,950	60,057	58,814	鞍手町	15,550	15,678	15,627
飯塚市	126,416	121,711	123,593	桂川町	12,591	12,825	12,731
田川市	46,757	43,160	44,599	筑前町	29,251	28,151	28,591
柳川市	64,287	53,966	58,094	東峰村	1,848	1,664	1,737
八女市	60,472	59,541	59,914	大刀洗町	15,198	17,186	16,390
筑後市	48,541	48,203	48,338	大木町	13,569	13,241	13,372
大川市	33,371	31,668	32,349	広川町	20,370	23,370	22,170
行橋市	70,573	65,988	67,822	香春町	10,451	10,380	10,408
豊前市	24,352	22,479	23,228	添田町	8,758	6,551	7,434
中間市	40,503	36,792	38,276	糸田町	8,028	6,265	6,970
小郡市	60,174	44,215	50,599	川崎町	14,935	14,582	14,723
筑紫野市	102,978	84,758	92,046	大任町	5,071	5,646	5,416
春日市	111,422	85,858	96,084	赤村	2,880	2,595	2,709
大野城市	101,329	116,171	110,234	福智町	21,066	20,771	20,889
宗像市	97,200	83,060	88,716	荏田町	38,343	48,284	44,308
太宰府市	74,203	91,263	84,439	みやこ町	19,234	16,180	17,401
古賀市	58,742	53,052	55,328	吉富町	6,493	7,256	6,950
福津市	67,028	62,726	64,447	上毛町	7,305	6,490	6,816
うきは市	28,037	23,386	25,246	築上町	17,194	15,280	16,046
計	5,135,105	5,105,133	5,117,122				



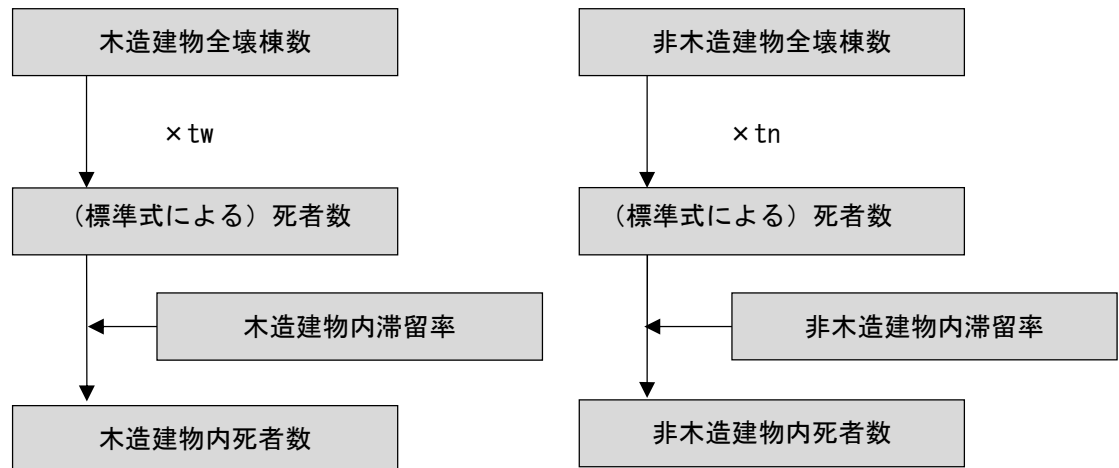
図Ⅲ.2-2 屋内外別滞留人口内訳

## 2.3 建物倒壊による被害の想定

建物倒壊による人的被害は、建物被害棟数と人口データを基に死者数、負傷者数及び重傷者数（負傷者数の内数）を算出した。

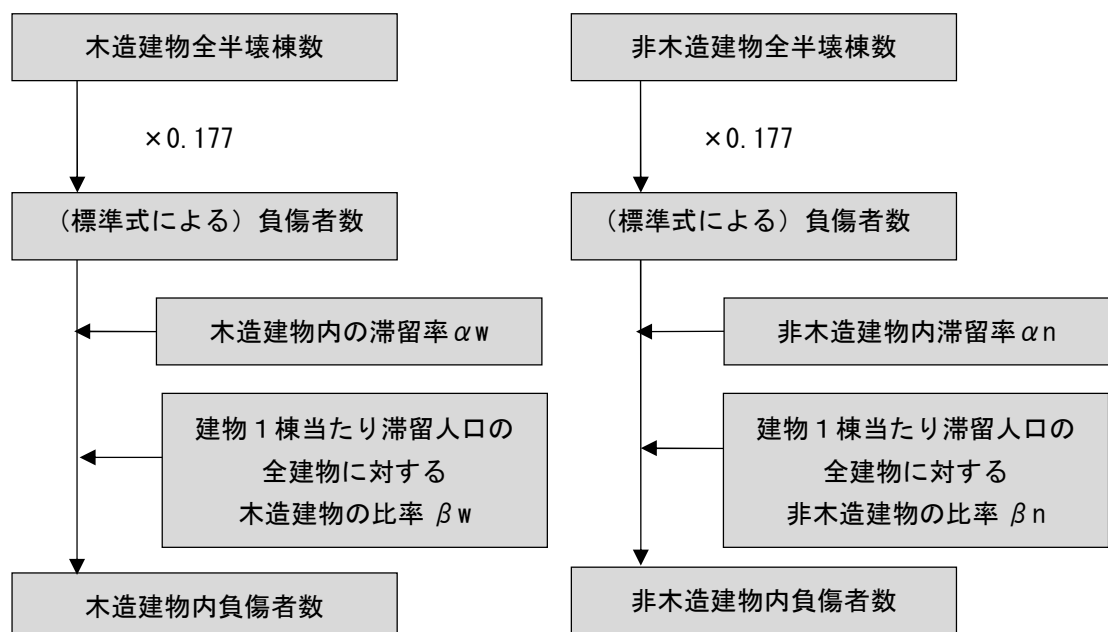
### 2.3.1 建物倒壊による被害の想定の流れ

#### (1) 建物倒壊による死者数想定の流れ



図Ⅲ.2-3 建物倒壊による死者数想定フロー（内閣府（2025））

#### (2) 建物倒壊による負傷者数想定の流れ

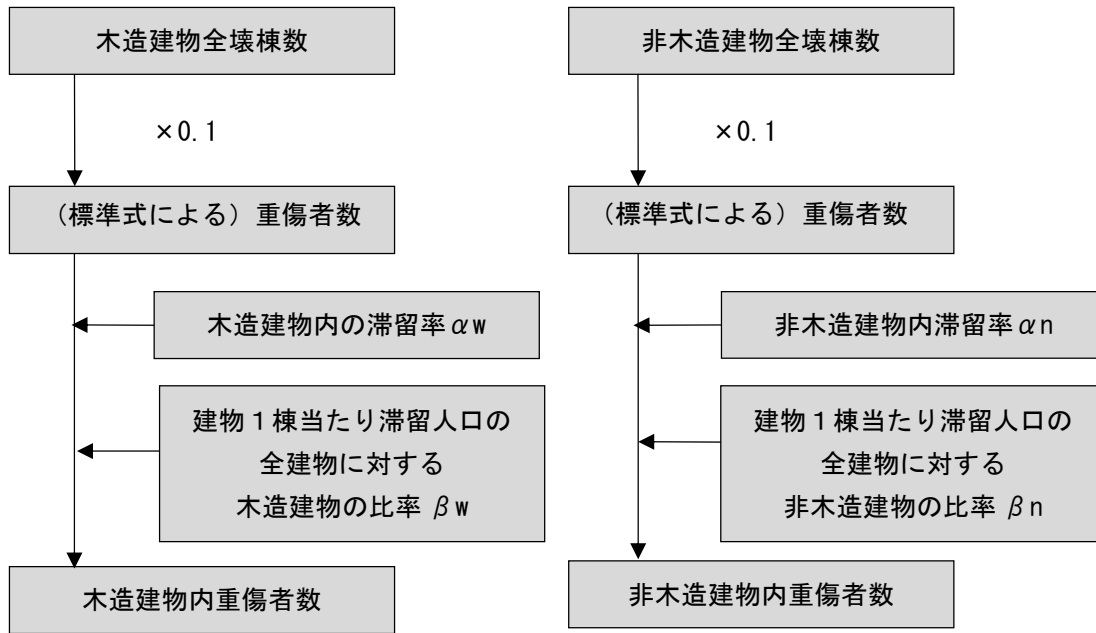


図Ⅲ.2-4 建物倒壊による負傷者数想定フロー（内閣府（2025））

### 第Ⅲ編 被害想定

#### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

(3) 建物倒壊による重傷者数(負傷者数の内数) 想定の流れ



図Ⅲ.2-5 建物倒壊による重傷者数想定フロー(内閣府(2025))

#### 2.3.2 建物倒壊による被害の想定手法

建物倒壊による人的被害は、内閣府(2025)に基づき以下の式により算出した。

(1) 死者数

$$(\text{木造建物内死者数}) = t_w \times (\text{揺れによる木造全壊棟数}) \times \alpha_w$$

$$(\text{非木造建物内死者数}) = t_n \times (\text{揺れによる非木造全壊棟数}) \times \alpha_n$$

$$t_w = 0.0676 \quad t_n = 0.00840 \times \frac{P_n0}{B_n} \div \frac{P_w0}{B_w}$$

表Ⅲ.2-3 係数の意味

意味	係数記号
木造全壊1棟当たりの死者数	$t_w$
非木造全壊1棟当たりの死者数	$t_n$
夜間人口(木造)	$P_w0$
夜間人口(非木造)	$P_n0$
建物棟数(木造)	$B_w$
建物棟数(非木造)	$B_n$

(2) 負傷者数

$$(\text{木造建物における負傷者数}) = 0.177 \times (\text{揺れによる木造全半壊棟数}) \times \alpha_w \times \beta_w$$

$$(\text{非木造建物における負傷者数}) = 0.177 \times (\text{揺れによる非木造全半壊棟数}) \times \alpha_n \times \beta_n$$

**表Ⅲ.2-4 係数の意味**

意味	係数
全半壊 1 棟当たりの負傷者数	0.177

(3) 重傷者数

$$(\text{木造建物における重傷者数}) = 0.1 \times (\text{揺れによる木造全壊棟数}) \times \alpha_w \times \beta_w$$

$$(\text{非木造建物における重傷者数}) = 0.1 \times (\text{揺れによる非木造全壊棟数}) \times \alpha_n \times \beta_n$$

**表Ⅲ.2-5 係数の意味**

意味	係数
全壊 1 棟当たりの重傷者数	0.1

(4) 共通する係数

$$\alpha_w = (\text{発生時刻の木造建物内滞留人口}) \div (\text{朝 5 時の木造建物内滞留人口})$$

$$\alpha_n = (\text{発生時刻の非木造建物内滞留人口}) \div (\text{朝 5 時の非木造建物内滞留人口})$$

$$\beta_w = (\text{木造建物 1 棟当たりの滞留人口}) \div (\text{全建物 1 棟当たりの滞留人口})$$

$$\beta_n = (\text{非木造建物 1 棟当たりの滞留人口}) \div (\text{全建物 1 棟当たりの滞留人口})$$

**表Ⅲ.2-6 係数の意味**

意味	係数記号
木造建物内滞留率	$\alpha_w$
非木造建物内滞留率	$\alpha_n$
建物 1 棟当たり滞留人口の全建物に対する木造建物の比率 (時間別)	$\beta_w$
建物 1 棟当たり滞留人口の全建物に対する非木造建物の比率 (時間別)	$\beta_n$

## 第Ⅲ編 被害想定

### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

#### 2.3.3 建物倒壊による被害の想定結果

##### (1) 建物倒壊による被害の想定結果表

想定地震の建物倒壊による人的被害を表Ⅲ.2-7に示す。計算に使用した人口は、季節・時間帯によって数値が異なるため、各季節・時間帯のケースで被害数が異なる。

想定結果表の市区町村毎の算定値は、四捨五入することにより整数化して表しているため、算定値を集計したものとは必ずしも一致しない点に留意が必要である。「-」の表記は、「わずか」を示す。

第Ⅲ編 被害想定  
2.人的被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ.2-7 建物倒壊による死傷者数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】 (人)

市区町村	冬5時			夏12時			冬18時		
	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者
北九州市	0	-	0	0	-	0	0	-	0
門司区	0	-	0	0	-	0	0	-	0
若松区	0	-	0	0	-	0	0	-	0
戸畑区	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小倉北区	0	-	0	0	-	0	0	-	0
小倉南区	0	-	0	0	-	0	0	-	0
八幡東区	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八幡西区	0	-	0	0	-	0	0	-	0
福岡市	約 600	約 5,800	約 1,100	約 500	約 4,800	約 900	約 500	約 4,800	約 900
東区	約 100	約 1,100	約 200	約 80	約 900	約 100	約 90	約 900	約 100
博多区	約 100	約 1,100	約 200	約 100	約 900	約 200	約 100	約 900	約 200
中央区	約 50	約 500	約 100	約 50	約 500	約 90	約 50	約 500	約 90
南区	約 100	約 1,300	約 200	約 100	約 1,100	約 200	約 100	約 1,100	約 200
西区	約 50	約 600	約 90	約 50	約 600	約 80	約 50	約 500	約 80
城南区	約 30	約 400	約 50	約 20	約 300	約 40	約 30	約 300	約 40
早良区	約 80	約 800	約 200	約 70	約 700	約 100	約 70	約 700	約 100
大牟田市	0	-	0	0	-	0	0	-	0
久留米市	約 200	約 1,600	約 300	約 200	約 1,400	約 200	約 200	約 1,400	約 200
直方市	0	-	0	0	-	0	0	-	0
飯塚市	-	約 30	-	-	約 50	-	-	約 40	-
田川市	0	-	0	0	-	0	0	-	0
柳川市	-	約 200	-	-	約 200	-	-	約 100	-
八女市	-	-	-	-	約 10	-	-	-	-
筑後市	0	約 40	0	0	約 50	0	0	約 50	0
大川市	約 20	約 300	約 30	約 20	約 300	約 30	約 20	約 300	約 30
行橋市	0	-	0	0	-	0	0	-	0
豊前市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中間市	0	-	0	0	-	0	0	-	0
小郡市	約 50	約 500	約 80	約 40	約 400	約 60	約 40	約 400	約 70
筑紫野市	約 70	約 700	約 100	約 60	約 600	約 100	約 60	約 600	約 100
春日市	約 200	約 1,600	約 300	約 200	約 1,200	約 200	約 200	約 1,300	約 200
大野城市	約 100	約 1,000	約 200	約 90	約 800	約 100	約 90	約 800	約 100
宗像市	0	約 10	0	0	約 20	0	0	約 10	0
太宰府市	約 200	約 1,400	約 300	約 200	約 1,100	約 200	約 200	約 1,100	約 300
古賀市	-	約 10	-	-	約 20	-	-	約 20	-
福津市	-	-	-	-	約 10	-	-	約 10	-
うきは市	-	約 100	-	-	約 100	-	-	約 90	-
宮若市	0	-	0	0	-	0	0	-	0
嘉麻市	0	-	0	0	-	0	0	-	0
朝倉市	約 30	約 400	約 40	約 20	約 300	約 40	約 20	約 300	約 30
みやま市	0	約 20	0	0	約 30	0	0	約 20	0
糸島市	-	約 200	-	-	約 200	-	-	約 200	-
那珂川市	約 40	約 400	約 60	約 30	約 300	約 50	約 30	約 300	約 50
宇美町	-	約 200	約 20	-	約 200	約 20	-	約 200	約 20
篠栗町	-	約 100	約 10	-	約 100	約 10	-	約 100	約 10
志免町	約 60	約 500	約 100	約 50	約 400	約 80	約 50	約 400	約 80
須恵町	約 20	約 300	約 40	約 20	約 200	約 30	約 20	約 200	約 30
新宮町	-	約 20	-	-	約 20	-	-	約 20	-
久山町	-	約 10	-	-	約 20	-	-	約 10	-
粕屋町	約 60	約 500	約 100	約 50	約 400	約 80	約 50	約 400	約 80
芦屋町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水巻町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
岡垣町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
遠賀町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
小竹町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
鞍手町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
桂川町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
筑前町	-	約 80	-	-	約 80	-	-	約 70	-
東峰村	0	-	0	0	-	0	0	-	0
大刀洗町	約 70	約 500	約 100	約 60	約 400	約 90	約 60	約 400	約 90
大木町	-	約 20	-	-	約 20	-	-	約 20	-
広川町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
香春町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
添田町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
糸田町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
川崎町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
大任町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
赤村	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福智町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
荏田町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
みやこ町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
吉富町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上毛町	0	-	0	0	-	0	0	-	0
築上町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	約 1,700	約 17,000	約 2,900	約 1,400	約 14,000	約 2,300	約 1,500	約 14,000	約 2,400

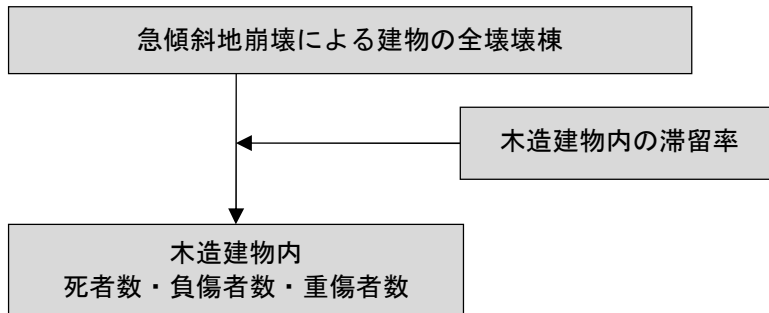
### 第Ⅲ編 被害想定

#### 2. 人的被害想定(想定手法、結果)

##### 2.4 急傾斜地崩壊による被害の想定

急傾斜地崩壊による人的被害は、揺れにより引き起こされた斜面の崩壊により家屋が倒壊し、それに伴い死者、負傷者及び重傷者が発生する場合を想定した。

###### 2.4.1 急傾斜地崩壊による被害の想定の流れ



図Ⅲ. 2-6 急傾斜地崩壊による人的被害想定フロー（内閣府（2025）を基に作成）

###### 2.4.2 急傾斜地崩壊による被害の想定手法

内閣府（2025）に基づき、昭和 42 年（1967 年）から昭和 56 年（1981 年）までの崖崩れの被害実態（平成 3 年東京都防災会議「東京における地震被害の想定に関する調査研究」による）から求められた以下の関係式により、人的被害を算出した。

（死者数）

$$= 0.098 \times (\text{急傾斜地崩壊による全壊棟数}) \times 0.7 \times (\text{木造建物内滞留人口比率})$$

（木造建物内滞留人口比率）

$$= (\text{発生時刻の木造建物内滞留人口}) \div (\text{木造建物内滞留人口の 24 時間平均})$$

（負傷者数） $= 1.25 \times (\text{死者数})$

（重傷者数） $= (\text{負傷者数}) \div 2$

表Ⅲ. 2-8 係数の意味

意味	係数
大破建物内人口の死者数が占める割合	0.098
死者数に対する負傷者数の比率	1.25

### 2.4.3 急傾斜地崩壊による被害の想定結果

想定地震の急傾斜地崩壊による人的被害を表Ⅲ.2-9に示す。計算に使用した人口は、季節・時間帯によって数値が異なるため、各季節・時間帯のケースで被害数が異なる。

想定結果表の市区町村毎の算定値は、四捨五入することにより整数化して表しているため、算定値を集計したものとは必ずしも一致しない点に留意が必要である。「-」の表記は、「わずか」を示す。

第Ⅲ編 被害想定

2.人的被害想定(想定手法、結果)

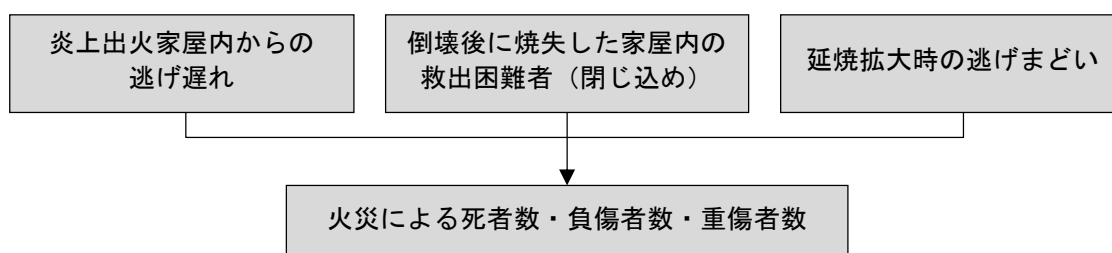
表Ⅲ.2-9 急傾斜地崩壊による死傷者数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】 (人)

市区町村	冬5時			夏12時			冬18時		
	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者
北九州市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
門司区	0	0	0	0	0	0	0	0	0
若松区	0	0	0	0	0	0	0	0	0
戸畑区	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小倉北区	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小倉南区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八幡東区	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八幡西区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
博多区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中央区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
城南区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
早良区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大牟田市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
久留米市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
直方市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
飯塚市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
田川市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
柳川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八女市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
筑後市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
行橋市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊前市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小郡市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
筑紫野市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
春日市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大野城市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宗像市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
太宰府市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
古賀市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福津市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うきは市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮若市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
嘉麻市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
朝倉市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
みやま市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
糸島市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
那珂川市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宇美町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
篠栗町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
志免町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
須恵町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新宮町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
久山町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
粕屋町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
芦屋町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水巻町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岡垣町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
遠賀町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小竹町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鞍手町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
桂川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
筑前町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東峰村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大木町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香春町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
添田町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
糸田町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川崎町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大任町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
赤村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福智町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
荻田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
みやこ町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
吉富町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上毛町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
築上町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	約 20	約 20	約 10	約 20	約 20	約 10	約 20	約 20	約 10

## 2.5 火災による被害の想定

火災による人的被害は、火災による死者発生要因に基づき死者数、負傷者数及び重傷者数を算出した。

### 2.5.1 火災による被害の想定の流れ



図Ⅲ.2-7 火災による人的被害想定フロー（内閣府（2025）を基に作成）

表Ⅲ.2-10 3つの火災による死者発生シナリオ

死者発生要因	備考
炎上出火家屋内からの逃げ遅れ	出火直後：突然の出火により逃げ遅れた人 (揺れによる建物倒壊を伴わない)
倒壊後に焼失した家屋内の救出困難者(閉じ込め)	出火直後：揺れによる建物被害で建物内に閉じ込められた後に 出火し、逃げられない人 延焼中：揺れによる建物被害で建物内に閉じ込められた後に 延焼し、逃げられない人
延焼拡大時の逃げまどい	延焼中：建物内には閉じ込められていないが、避難にとまどって いる間に延焼が拡大し、巻き込まれて焼死する人

### 2.5.2 火災による被害の想定手法

#### (1) 死者数

死者数は内閣府（2025）を基に以下の式から算出した。

##### 1) 炎上出火家屋内からの逃げ遅れ

(炎上出火家屋内から逃げ遅れた死者数) = 0.055 × (出火件数) × (屋内滞留人口比率)

(屋内滞留人口比率) = (発生時刻の屋内滞留人口) ÷ (屋内滞留人口の24時間平均)

表Ⅲ.2-11 係数の意味

意味	係数
平成30年～令和4年の5年間の全国における1建物出火 (放火を除く)当たりの死者数	0.055

### 第Ⅲ編 被害想定

#### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

2) 倒壊後に焼失した家屋内の救出困難者（閉じ込め）

(閉じ込めによる死者数)

$$= (\text{倒壊かつ焼失家屋内の救出困難な人}) \times (1 - 0.387)$$

(倒壊かつ焼失家屋内の救出困難な人)

$$= (1 - 0.72) \times (\text{倒壊かつ焼失家屋内の要救助者数})$$

(倒壊かつ焼失家屋内の要救助者数)

$$= (\text{揺れによる建物被害に伴う要救助者数}) \times (\text{倒壊かつ焼失の棟数} \div \text{倒壊建物数})$$

表Ⅲ.2-12 係数の意味

意味	係数
生存救出率	0.387
早期救出可能な割合	0.72

3) 延焼拡大時の逃げまどい

延焼拡大時の逃げまどいによる死者数は、火災による死者数から、炎上出火家屋内から逃げ遅れた死者数及び閉じ込めによる死者数を除去することで想定した。火災による死者数は、大正12年(1923年)関東地震と、大火のうち被害の大きかった昭和9年(1934年)函館大火を基にした焼失率と火災による死者率との関係である図Ⅲ.2-8を使用した。また、大規模火災旋風の影響の有無を考慮して、風速は平均風速(4m/s)及び最大風速(8m/s)の2ケースについて算出した。

(延焼拡大時の逃げまどいによる死者数)

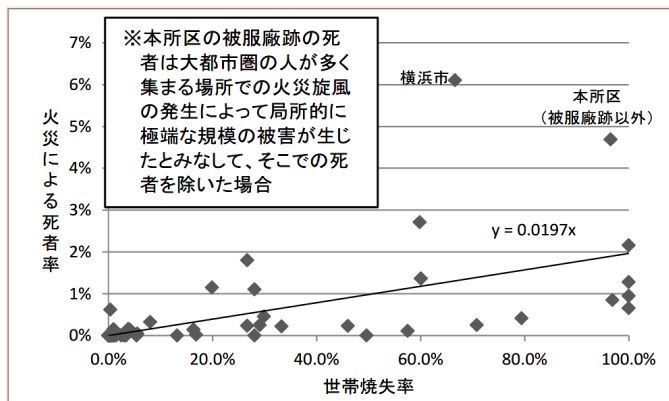
$$= (\text{火災による死者数}) - (\text{炎上出火家屋内から逃げ遅れた死者数})$$

- (閉じ込めによる死者数)

$$(\text{火災による死者数}) = 0.0197 \times (\text{世帯焼失率}) \times (\text{滞留人口})$$

表Ⅲ.2-13 係数の意味

意味	係数
火災による死者率	0.0197



図Ⅲ.2-8 世帯焼失率と死者率の関係 (内閣府 (2025) )

(2) 負傷者数

負傷者数は内閣府（2025）を基に以下の式から算出した。

1) 炎上出火家屋内からの逃げ遅れ

$$(\text{出火直後の火災による重傷者数}) = 0.073 \times (\text{出火件数}) \times (\text{屋内滞留人口比率})$$

$$(\text{出火直後の火災による軽傷者数}) = 0.182 \times (\text{出火件数}) \times (\text{屋内滞留人口比率})$$

$$(\text{屋内滞留人口比率}) = (\text{発生時刻の屋内滞留人口}) \div (\text{屋内滞留人口の 24 時間平均})$$

2) 倒壊後に焼失した家屋内の救出困難者

$$(\text{延焼火災による重傷者数}) = 0.0053 \times (\text{焼失人口})$$

$$(\text{延焼火災による軽傷者数}) = 0.0136 \times (\text{焼失人口})$$

$$(\text{焼失人口}) = (\text{市区町村別焼失率}) \times (\text{発生時刻の市区町村別滞留人口})$$

**表Ⅲ.2-14 係数の意味**

意味	係数
出火 1 件あたりの重傷者数	0.073
出火 1 件あたりの軽傷者数	0.182
焼失人口に占める重傷者の割合	0.0053
焼失人口に占める軽傷者の割合	0.0136

## 第Ⅲ編 被害想定

### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

#### 2.5.3 火災による被害の想定結果

想定地震の火災による人的被害を表Ⅲ.2-15～表Ⅲ.2-17に示す。計算に使用した人口や出火率等は、季節・時間帯・風速によって数値が異なるため、各季節・時間帯・風速のケースで被害数が異なる。

想定結果表の市区町村毎の算定値は、四捨五入することにより整数化して表しているため、算定値を集計したものとは必ずしも一致しない点に留意が必要である。「-」の表記は、「わずか」を示す。

第Ⅲ編 被害想定  
2.人的被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ.2-15 火災による死傷者数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】(冬5時) (人)

市区町村	強風			平均風速		
	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者
北九州市	-	-	-	-	-	-
門司区	-	-	-	-	-	-
若松区	-	-	-	-	-	-
戸畑区	-	-	-	-	-	-
小倉北区	-	-	-	-	-	-
小倉南区	-	-	-	-	-	-
八幡東区	-	-	-	-	-	-
八幡西区	-	-	-	-	-	-
福岡市	約 400	約 200	約 80	約 300	約 200	約 60
東区	-	-	-	-	-	-
博多区	約 20	約 10	-	約 10	-	-
中央区	約 10	-	-	約 10	-	-
南区	約 300	約 200	約 70	約 200	約 100	約 50
西区	約 20	約 10	-	約 20	-	-
城南区	-	-	-	-	-	-
早良区	-	-	-	-	-	-
大牟田市	-	-	-	-	-	-
久留米市	約 20	-	-	-	-	-
直方市	-	-	-	-	-	-
飯塚市	-	-	-	-	-	-
田川市	-	-	-	-	-	-
柳川市	-	-	-	-	-	-
八女市	-	-	-	-	-	-
筑後市	-	-	-	-	-	-
大川市	-	-	-	-	-	-
行橋市	-	-	-	-	-	-
豊前市	-	-	-	-	-	-
中間市	-	-	-	-	-	-
小郡市	-	-	-	-	-	-
筑紫野市	-	-	-	-	-	-
春日市	約 50	約 30	約 10	約 10	-	-
大野城市	約 10	-	-	約 10	-	-
宗像市	-	-	-	-	-	-
太宰府市	約 50	約 30	約 10	約 30	約 20	-
古賀市	-	-	-	-	-	-
福津市	-	-	-	-	-	-
うきは市	-	-	-	-	-	-
宮若市	-	-	-	-	-	-
嘉麻市	-	-	-	-	-	-
朝倉市	-	-	-	-	-	-
みやま市	-	-	-	-	-	-
糸島市	-	-	-	-	-	-
那珂川市	-	-	-	-	-	-
宇美町	-	-	-	-	-	-
篠栗町	-	-	-	-	-	-
志免町	-	-	-	-	-	-
須恵町	-	-	-	-	-	-
新宮町	-	-	-	-	-	-
久山町	-	-	-	-	-	-
粕屋町	-	-	-	-	-	-
芦屋町	-	-	-	-	-	-
水巻町	-	-	-	-	-	-
岡垣町	-	-	-	-	-	-
遠賀町	-	-	-	-	-	-
小竹町	-	-	-	-	-	-
鞍手町	-	-	-	-	-	-
桂川町	-	-	-	-	-	-
筑前町	-	-	-	-	-	-
東峰村	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	-	-	-	-	-	-
大木町	-	-	-	-	-	-
広川町	-	-	-	-	-	-
香春町	-	-	-	-	-	-
添田町	-	-	-	-	-	-
糸田町	-	-	-	-	-	-
川崎町	-	-	-	-	-	-
大任町	-	-	-	-	-	-
赤村	-	-	-	-	-	-
福智町	-	-	-	-	-	-
苅田町	-	-	-	-	-	-
みやこ町	-	-	-	-	-	-
吉富町	-	-	-	-	-	-
上毛町	-	-	-	-	-	-
築上町	-	-	-	-	-	-
合計	約 500	約 300	約 100	約 400	約 200	約 80

第Ⅲ編 被害想定

2.人的被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ.2-16 火災による死傷者数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】(夏12時) (人)

市区町村	強風			平均風速		
	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者
北九州市	-	-	-	-	-	-
門司区	-	-	-	-	-	-
若松区	-	-	-	-	-	-
戸畑区	-	-	-	-	-	-
小倉北区	-	-	-	-	-	-
小倉南区	-	-	-	-	-	-
八幡東区	-	-	-	-	-	-
八幡西区	-	-	-	-	-	-
福岡市	約 300	約 100	約 60	約 200	約 100	約 40
東区	-	-	-	-	-	-
博多区	-	-	-	-	-	-
中央区	約 20	約 10	-	約 20	約 10	-
南区	約 200	約 100	約 50	約 200	約 90	約 30
西区	-	-	-	-	-	-
城南区	-	-	-	-	-	-
早良区	-	-	-	-	-	-
大牟田市	-	-	-	-	-	-
久留米市	約 10	-	-	-	-	-
直方市	-	-	-	-	-	-
飯塚市	-	-	-	-	-	-
田川市	-	-	-	-	-	-
柳川市	-	-	-	-	-	-
八女市	-	-	-	-	-	-
筑後市	-	-	-	-	-	-
大川市	-	-	-	-	-	-
行橋市	-	-	-	-	-	-
豊前市	-	-	-	-	-	-
中間市	-	-	-	-	-	-
小郡市	-	-	-	-	-	-
筑紫野市	-	-	-	-	-	-
春日市	約 30	約 20	-	-	-	-
大野城市	約 10	-	-	-	-	-
宗像市	-	-	-	-	-	-
太宰府市	約 40	約 20	-	約 20	約 10	-
古賀市	-	-	-	-	-	-
福津市	-	-	-	-	-	-
うきは市	-	-	-	-	-	-
宮若市	-	-	-	-	-	-
嘉麻市	-	-	-	-	-	-
朝倉市	-	-	-	-	-	-
みやま市	-	-	-	-	-	-
糸島市	-	-	-	-	-	-
那珂川市	-	-	-	-	-	-
宇美町	-	-	-	-	-	-
篠栗町	-	-	-	-	-	-
志免町	-	-	-	-	-	-
須恵町	-	-	-	-	-	-
新宮町	-	-	-	-	-	-
久山町	-	-	-	-	-	-
粕屋町	-	-	-	-	-	-
芦屋町	-	-	-	-	-	-
水巻町	-	-	-	-	-	-
岡垣町	-	-	-	-	-	-
遠賀町	-	-	-	-	-	-
小竹町	-	-	-	-	-	-
鞍手町	-	-	-	-	-	-
桂川町	-	-	-	-	-	-
筑前町	-	-	-	-	-	-
東峰村	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	-	-	-	-	-	-
大木町	-	-	-	-	-	-
広川町	-	-	-	-	-	-
香春町	-	-	-	-	-	-
添田町	-	-	-	-	-	-
糸田町	-	-	-	-	-	-
川崎町	-	-	-	-	-	-
大任町	-	-	-	-	-	-
赤村	-	-	-	-	-	-
福智町	-	-	-	-	-	-
荻田町	-	-	-	-	-	-
みやこ町	-	-	-	-	-	-
吉富町	-	-	-	-	-	-
上毛町	-	-	-	-	-	-
築上町	-	-	-	-	-	-
合計	約 400	約 200	約 90	約 300	約 200	約 60

第Ⅲ編 被害想定  
2.人的被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ.2-17 火災による死傷者数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】(冬18時) (人)

市区町村	強風			平均風速		
	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者
北九州市	-	-	-	-	-	-
門司区	-	-	-	-	-	-
若松区	-	-	-	-	-	-
戸畑区	-	-	-	-	-	-
小倉北区	-	-	-	-	-	-
小倉南区	-	-	-	-	-	-
八幡東区	-	-	-	-	-	-
八幡西区	-	-	-	-	-	-
福岡市	約 500	約 300	約 100	約 400	約 200	約 90
東区	約 60	約 40	約 10	約 50	約 30	約 10
博多区	約 50	約 30	約 10	約 40	約 30	約 10
中央区	約 20	約 10	-	約 20	約 10	-
南区	約 300	約 200	約 70	約 200	約 100	約 50
西区	約 20	約 10	-	約 10	-	-
城南区	-	-	-	-	-	-
早良区	約 30	約 20	-	-	-	-
大牟田市	-	-	-	-	-	-
久留米市	約 30	約 20	-	約 20	約 10	-
直方市	-	-	-	-	-	-
飯塚市	-	-	-	-	-	-
田川市	-	-	-	-	-	-
柳川市	-	-	-	-	-	-
八女市	-	-	-	-	-	-
筑後市	-	-	-	-	-	-
大川市	-	-	-	-	-	-
行橋市	-	-	-	-	-	-
豊前市	-	-	-	-	-	-
中間市	-	-	-	-	-	-
小郡市	-	-	-	-	-	-
筑紫野市	約 20	-	-	約 10	-	-
春日市	約 70	約 40	約 20	約 40	約 20	-
大野城市	約 30	約 20	-	約 30	約 20	-
宗像市	-	-	-	-	-	-
太宰府市	約 100	約 70	約 30	約 60	約 40	約 10
古賀市	-	-	-	-	-	-
福津市	-	-	-	-	-	-
うきは市	-	-	-	-	-	-
宮若市	-	-	-	-	-	-
嘉麻市	-	-	-	-	-	-
朝倉市	約 10	-	-	約 10	-	-
みやま市	-	-	-	-	-	-
糸島市	-	-	-	-	-	-
那珂川市	約 10	-	-	-	-	-
宇美町	-	-	-	-	-	-
篠栗町	-	-	-	-	-	-
志免町	約 20	約 10	-	-	-	-
須恵町	約 40	約 20	-	約 20	約 10	-
新宮町	-	-	-	-	-	-
久山町	-	-	-	-	-	-
粕屋町	-	-	-	-	-	-
芦屋町	-	-	-	-	-	-
水巻町	-	-	-	-	-	-
岡垣町	-	-	-	-	-	-
遠賀町	-	-	-	-	-	-
小竹町	-	-	-	-	-	-
鞍手町	-	-	-	-	-	-
桂川町	-	-	-	-	-	-
筑前町	-	-	-	-	-	-
東峰村	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	-	-	-	-	-	-
大木町	-	-	-	-	-	-
広川町	-	-	-	-	-	-
香春町	-	-	-	-	-	-
添田町	-	-	-	-	-	-
糸田町	-	-	-	-	-	-
川崎町	-	-	-	-	-	-
大任町	-	-	-	-	-	-
赤村	-	-	-	-	-	-
福智町	-	-	-	-	-	-
苅田町	-	-	-	-	-	-
みやこ町	-	-	-	-	-	-
吉富町	-	-	-	-	-	-
上毛町	-	-	-	-	-	-
築上町	-	-	-	-	-	-
合計	約 900	約 500	約 200	約 600	約 400	約 100

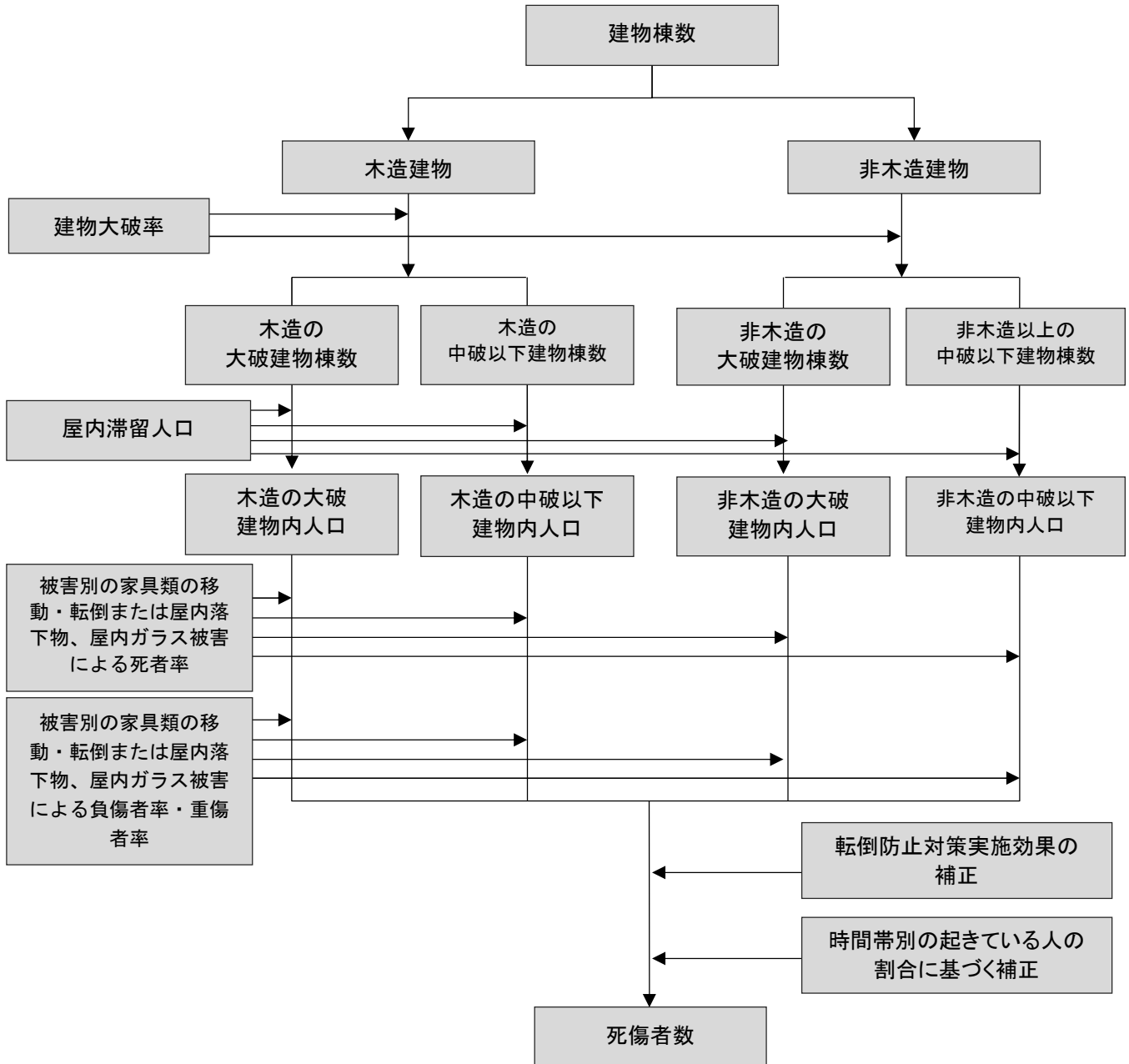
### 第Ⅲ編 被害想定

#### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

##### 2.6 屋内収容物の移動・転倒、屋内落下物、屋内ガラス被害による被害の想定

屋内収容物の移動・転倒、屋内落下物及び屋内ガラス被害による人的被害（以下、「屋内収容物の移動等による人的被害」という。）は、建物被害と屋内滞留人口より算出した。

###### 2.6.1 屋内収容物の移動等による人的被害想定の流れ



図Ⅲ.2-9 屋内収容物の移動等による人的被害想定フロー（内閣府（2025）を基に作成）

## 2.6.2 屋内収容物の移動等による人的被害想定手法

### (1) 屋内収容物の移動・転倒による被害

(屋内収容物の移動・転倒による死傷者数)

$$= \Sigma ((\text{構造別被害別建物内人口}) \times (\text{構造別被害別死傷者率}))$$

※構造別被害別の構造は木造・非木造、被害は大破・中破を指す。

#### 1) 死者率

屋内収容物の移動・転倒による死者率は、表Ⅲ.2-18の数値を使用した。

表Ⅲ.2-18 屋内収容物の移動・転倒による死者率(内閣府(2025))

震度階	大破の場合		中破以下の場合	
	木造建物	非木造建物	木造建物	非木造建物
7	0.314%	0.192%	0.00955%	0.000579%
6強	0.255%	0.156%	0.00689%	0.000471%
6弱	0.113%	0.0688%	0.00343%	0.000208%
5強	0.0235%	0%	0.000715%	0.0000433%
5弱	0.00264%	0%	0.0000803%	0.00000487%
4以下	0%	0%	0%	0%

なお、大破・中破は、全壊・半壊を使用して以下の式より算出した。表Ⅲ.2-19に昭和53年日本建築学会「1978年宮城県沖地震被害調査報告」による大破及び中破の定義を示す。係数0.7は、木造の全壊のうち大破の占める割合、木造の半壊のうち中破の占める割合を示す。

$$(\text{木造建物大破}) = (\text{木造全壊}) \times 0.7$$

$$(\text{非木造大破}) = (\text{非木造全壊})$$

$$(\text{中破以下}) = (\text{建物棟数}) - (\text{建物大破})$$

$$(\text{木造建物中破}) = (\text{木造半壊}) \times 0.7$$

$$(\text{非木造中破}) = (\text{非木造半壊})$$

第Ⅲ編 被害想定

2.人的被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ. 2-19 (参考) 建物被害のランク

ランク	被害状況
被害軽微	柱・耐力壁・二次壁の損傷が、軽微かもしくは、ほとんど損傷がないもの。
小破	柱・耐力壁の損傷は軽微であるが、RC 二次壁・階段室のまわりに、せん断ひびわれが見られるもの。
中破	柱に典型的なせん断ひびわれ・曲げひび割れ、耐力壁にひび割れが見られ、RC 二次壁・非構造体に大きな損傷が見られるもの。
大破	柱のせん断ひび割れ・曲げひび割れによって鉄筋が座屈し、耐力壁に大きなせん断ひび割れが生じて耐力に著しい低下が認められるもの。
崩壊	柱・耐力壁が大破壊し、建物全体または建物の一部が崩壊に至ったもの。

2) 負傷者率及び重傷者率

屋内転倒物の移動・転倒による負傷者率及び重傷者率は、表Ⅲ. 2-20の数値を使用した。

表Ⅲ. 2-20 屋内転倒物の移動・転倒による負傷者率・重傷者率 (内閣府 (2025) )

震度階	大破の場合		中破以下の場合	
	負傷者率	重傷者率	負傷者率	重傷者率
7	3.69%	0.995%	0.112%	0.0303%
6強	3.00%	0.809%	0.0809%	0.0218%
6弱	1.32%	0.357%	0.0402%	0.0109%
5強	0.276%	0%	0.00839%	0.00226%
5弱	0.0310%	0%	0.000943%	0.000255%
4以下	0%	0%	0%	0%

3) 転倒防止対策実施効果の補正係数

家具類の転倒防止対策実施率は、全国平均の 35.9%を考慮し、転倒防止対策実施効果の補正は以下の式より求め 0.77 とした。

(転倒防止対策実施効果の補正係数)

$$= (\text{現状での転倒率}) \div (\text{兵庫県南部地震当時の阪神地区での転倒率})$$

$$= ((100 - 35.9\%) + 35.9\% \times 0.23) \div ((100 - 7.8\%) + 7.8\% \times 0.23)$$

表Ⅲ. 2-21 係数の意味

意味	係数
家具転倒防止対策を行っていた場合の家具転倒率	0.23
平成7年(1995年)兵庫県南部地震当時の阪神地区の家具転倒防止対策実施率	7.8%

4) 時間別補正係数

屋内収容物の移動・転倒による死傷者数は、構造（木造/非木造）別被害（大破/中破）別建物内人口に死傷者率を乗じて求めた。なお、震度別死傷者率に対して時間帯別補正係数（5時：1.0、12時・18時：0.82）を乗じて、時間帯による危険性の違いを補正した。

(2) 屋内落下物による被害

(死傷者数)

$$= \Sigma ((\text{構造別被害別建物内人口}) \times (\text{屋内落下物による死傷率}) \times (\text{時間別補正係数}) \times (\text{転倒防止対策実施効果の補正係数}))$$

1) 死者数

屋内落下物による死者率は、表Ⅲ.2-22の数値を使用した。

**表Ⅲ.2-22 屋内落下物による死者率（内閣府（2025））**

震度階	大破の場合		中破以下の場合	
	木造建物	非木造建物	木造建物	非木造建物
7	0.0776%	0.0476%	0.00270%	0.000164%
6強	0.0542%	0.0351%	0.00188%	0.000121%
6弱	0.0249%	0.0198%	0.000865%	0.0000682%
5強	0.0117%	0%	0.000407%	0.0000404%
5弱	0.00586%	0%	0.000204%	0.0000227%
4以下	0%	0%	0%	0%

2) 負傷者数

屋内落下物による負傷者率は、表Ⅲ.2-23の数値を使用した。

**表Ⅲ.2-23 屋内落下物による負傷者率（内閣府（2025））**

震度階	大破の場合		中破以下の場合	
	負傷者率	重傷者率	負傷者率	重傷者率
7	1.76%	0.194%	0.0613%	0.00675%
6強	1.23%	0.135%	0.0428%	0.00471%
6弱	0.566%	0.0623%	0.0197%	0.00216%
5強	0.266%	0%	0.00926%	0.00102%
5弱	0.133%	0%	0.00463%	0.000509%
4以下	0%	0%	0%	0%

3) 転倒防止対策実施効果の補正係数

転倒防止対策実施効果の補正は、屋内収容物の移動・転倒の補正と同じく0.77を使用した。

4) 時間別補正係数

屋内落下物による死傷者数は、構造（木造/非木造）別被害（大破/中破）別建物内人口に死傷者率を乗じて求めた。なお、震度階別死傷者率に対して時間帯別補正係数（5時：1.0、12時・18時：0.82）を乗じて、時間帯による危険性の違いを補正した。

### 第Ⅲ編 被害想定

#### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

##### (3) 屋内ガラス被害

(死傷者数)

$$= \Sigma ((\text{構造別被害別建物内人口}) \times (\text{屋内ガラス被害による死傷率}) \\ \times (\text{時間別補正係数}) \times (\text{転倒防止対策実施効果の補正係数}))$$

##### 1) 死者数

屋内ガラス被害による死傷者率は、表Ⅲ. 2-24の数値を使用した。

表Ⅲ. 2-24 屋内ガラス被害による死傷者率 (内閣府 (2025) )

震度階	死者率	負傷者率	重傷者率
7	0.000299%	0.0564%	0.00797%
6強	0.000259%	0.0490%	0.00691%
6弱	0.000180%	0.0340%	0.00480%
5強	0.000101%	0.0190%	0.00269%
5弱	0.0000216%	0.00408%	0.000576%
4以下	0%	0%	0%

##### 2) 転倒防止対策実施効果の補正係数

転倒防止対策実施効果の補正は、屋内収容物の移動・転倒の補正と同じく 0.77 を使用した。

##### 3) 時間別補正係数

屋内ガラス被害による死傷者数は、構造 (木造/非木造) 別被害 (大破/中破) 別建物内人口に死傷者率を乗じて求めた。なお、震度階別死傷者率に対して時間帯別補正係数 (5時 : 1.0、12時・18時 : 0.82) を乗じて、時間帯による危険性の違いを補正した。

### 2.6.3 屋内収容物の移動等による被害の想定結果

想定地震の屋内収容物の移動等による人的被害を表Ⅲ.2-25に示す。計算に使用した人口は、季節・時間帯によって数値が異なるため、各季節・時間帯のケースで被害数が異なる。

想定結果表の市区町村毎の算定値は、四捨五入することにより整数化して表しているため、算定値を集計したものとは必ずしも一致しない点に留意が必要である。「-」の表記は、「わずか」を示す。

第Ⅲ編 被害想定

2.人的被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ. 2-25 屋内収容物の移動等による死傷者数【小呂島近海断層帯＋警固断層帯南東部】 (人)

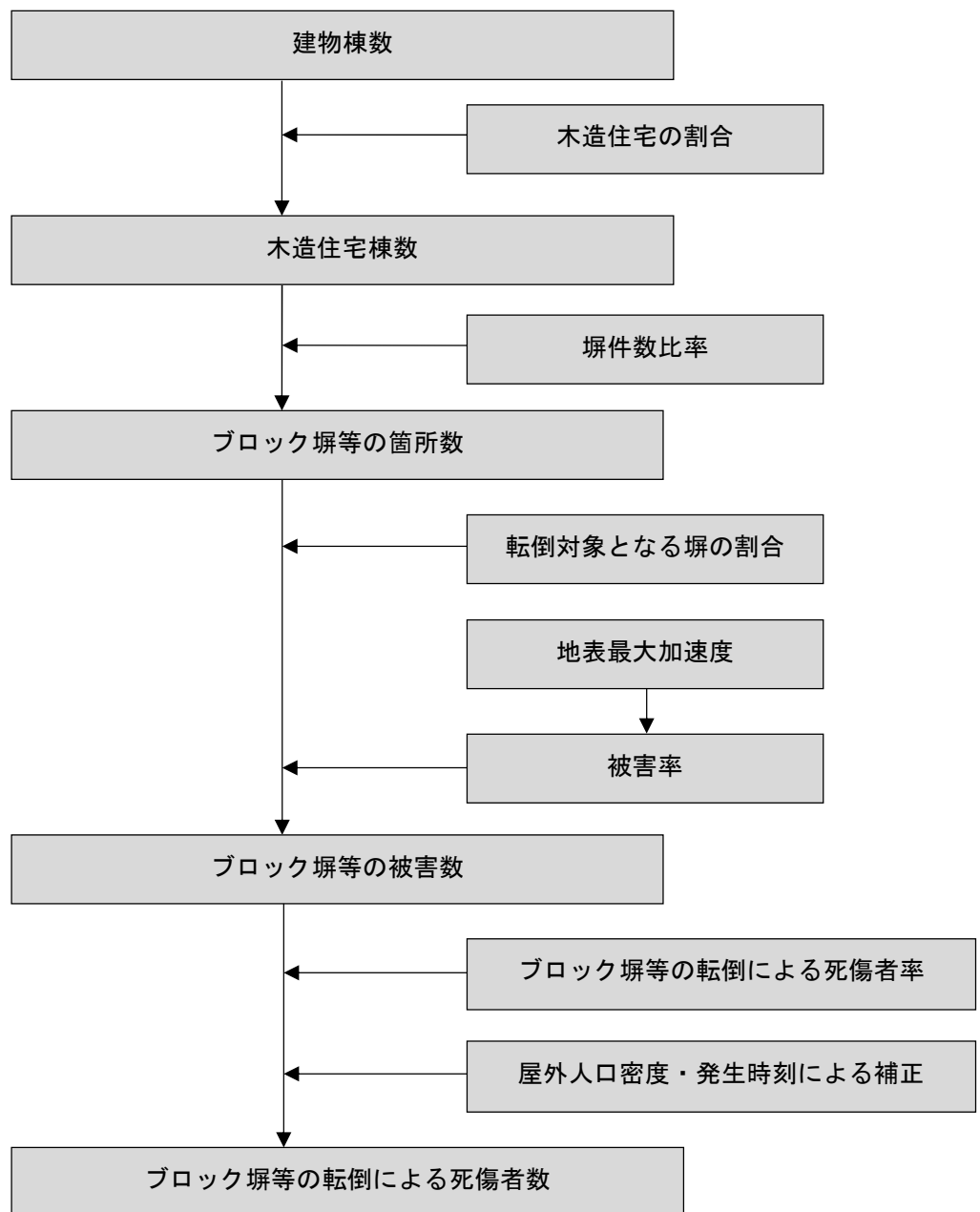
市区町村	冬5時			夏12時			冬18時		
	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者
北九州市	-	約 20	-	-	約 10	-	-	約 10	-
門司区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
若松区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
戸畑区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小倉北区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小倉南区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八幡東区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八幡西区	-	約 10	-	-	-	-	-	-	-
福岡市	約 100	約 2,000	約 400	約 70	約 1,400	約 300	約 70	約 1,300	約 300
東区	約 20	約 300	約 70	-	約 200	約 40	約 10	約 200	約 40
博多区	約 20	約 400	約 80	約 20	約 300	約 70	約 10	約 300	約 60
中央区	約 10	約 200	約 50	-	約 200	約 40	-	約 200	約 40
南区	約 30	約 400	約 90	約 10	約 300	約 50	約 20	約 300	約 60
西区	-	約 200	約 40	-	約 100	約 20	-	約 100	約 20
城南区	-	約 100	約 30	-	約 70	約 20	-	約 80	約 20
早良区	約 20	約 300	約 60	約 10	約 200	約 40	約 10	約 200	約 40
大牟田市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
久留米市	-	約 200	約 30	-	約 100	約 20	-	約 100	約 20
直方市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
飯塚市	-	約 20	-	-	約 10	-	-	約 10	-
田川市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
柳川市	-	約 20	-	-	約 10	-	-	約 10	-
八女市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
筑後市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大川市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
行橋市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
豊前市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小郡市	-	約 50	約 10	-	約 30	-	-	約 30	-
筑紫野市	-	約 100	約 30	-	約 90	約 20	-	約 90	約 20
春日市	約 10	約 200	約 50	-	約 100	約 30	-	約 100	約 30
大野城市	-	約 100	約 30	-	約 100	約 20	-	約 100	約 20
宗像市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
太宰府市	約 10	約 200	約 40	約 10	約 200	約 40	-	約 200	約 30
古賀市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福津市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うきは市	-	約 10	-	-	-	-	-	-	-
宮若市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
嘉麻市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
朝倉市	-	約 30	-	-	約 30	-	-	約 20	-
みやま市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
糸島市	-	約 30	-	-	約 20	-	-	約 20	-
那珂川市	-	約 70	約 10	-	約 40	-	-	約 40	-
宇美町	-	約 20	-	-	約 10	-	-	約 10	-
篠栗町	-	約 20	-	-	約 10	-	-	約 10	-
志免町	-	約 70	約 10	-	約 50	-	-	約 50	-
須恵町	-	約 30	-	-	約 30	-	-	約 30	-
新宮町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
久山町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
粕屋町	-	約 90	約 20	-	約 80	約 20	-	約 70	約 10
芦屋町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
水巻町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡垣町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
遠賀町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小竹町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鞍手町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
桂川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
筑前町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東峰村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	-	約 40	-	-	約 30	-	-	約 30	-
大木町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香春町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
添田町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
糸田町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川崎町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大任町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
赤村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福智町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
荻田町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
みやこ町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
吉富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上毛町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
築上町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約 200	約 3,500	約 700	約 100	約 2,400	約 500	約 100	約 2,300	約 500

## 2.7 ブロック塀等の倒壊や自動販売機の転倒、屋外落下物による被害の想定

ブロック塀、石塀及びコンクリート塀（以下、「ブロック塀等」という。）の倒壊は、木造住宅棟数に基づいて、ブロック塀等の箇所数を求め、これと地表加速度別の被害率より算出した。さらに、ブロック塀等の被害数に死傷者率を乗じ、人的被害を算出した。

### 2.7.1 被害想定の流れ

(1) ブロック塀等の倒壊による人的被害想定の流れ

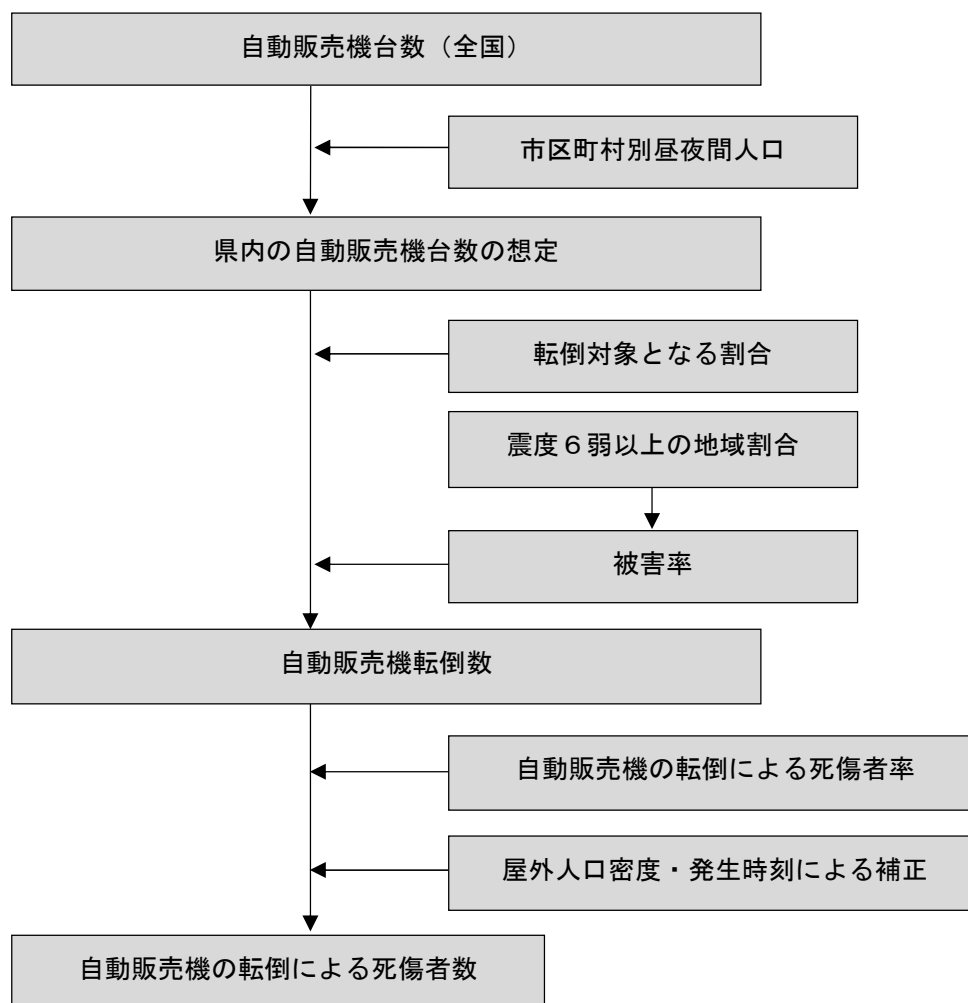


図Ⅲ.2-10 ブロック塀等の転倒による人的被害想定フロー（内閣府（2025）を基に作成）

### 第Ⅲ編 被害想定

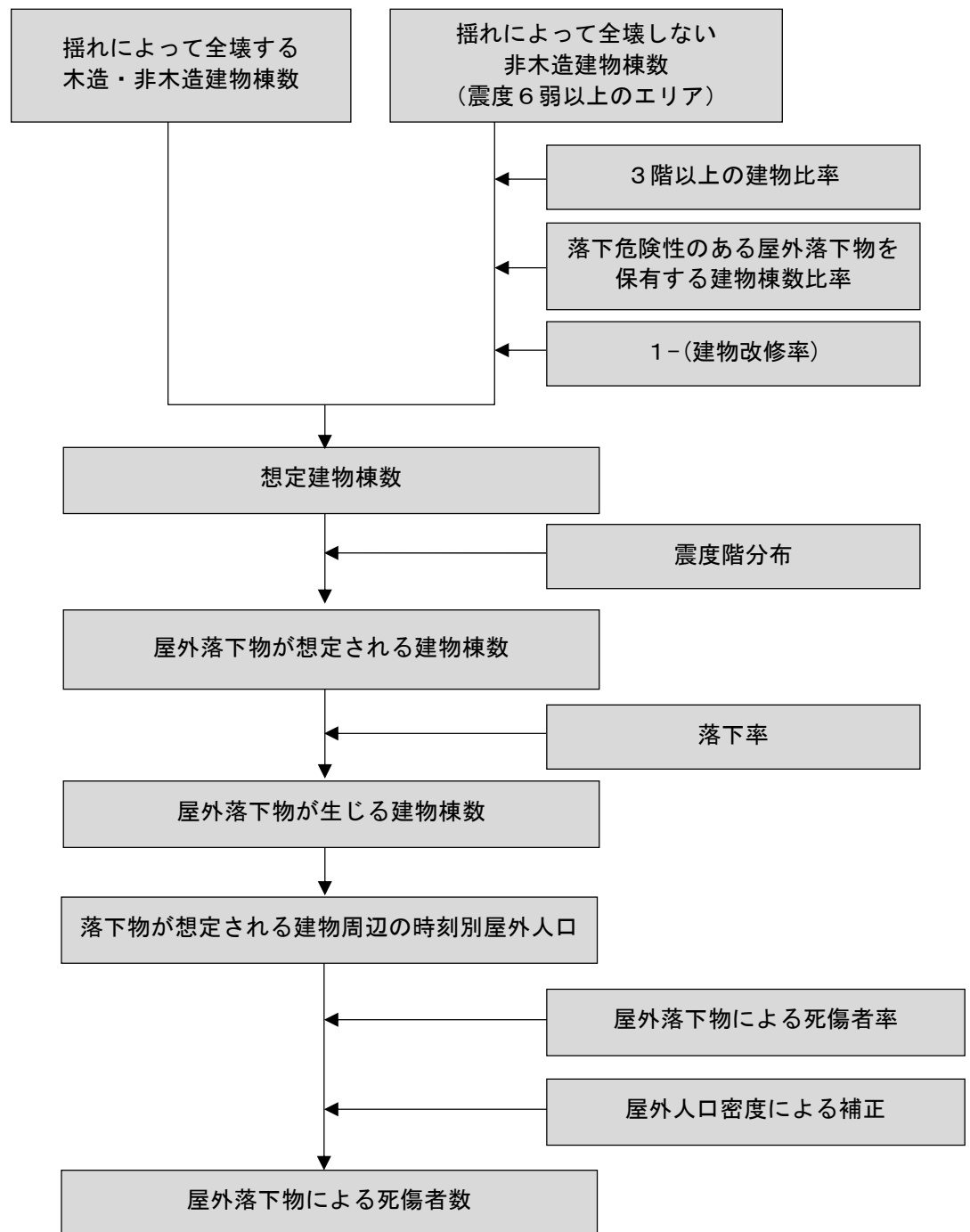
#### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

(2) 自動販売機の転倒による人的被害想定の流れ



図Ⅲ.2-11 自動販売機の転倒による人的被害想定フロー（内閣府（2025）を基に作成）

(3) 屋外落下物による人的被害の想定の流れ



図Ⅲ.2-12 屋外落下物による人的被害想定フロー（内閣府（2025）を基に作成）

### 第Ⅲ編 被害想定

#### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

##### 2.7.2 想定手法

(1) ブロック塀等の倒壊による人的被害の想定手法

1) 死傷者数

死傷者数は、内閣府(2025)に基づき、ブロック塀等の倒壊数に表Ⅲ.2-26に示す死傷者率(倒壊1件当たりの死傷者数)を乗じて算定した。さらに昭和53年(1978年)宮城県沖地震の発生時間帯に対する移動者数の比率を考慮し、仙台市の移動者数屋外人口密度(1,689.16人/km<sup>2</sup>)を基に本県の市区町村における屋外人口密度に応じて補正した。

(死傷者数)

$$\begin{aligned} &= (\text{死傷者率}) \times (\text{市区町村別のブロック塀等被害数}) \\ &\times (\text{市区町村別時刻別移動者数}) \div (\text{市区町村別18時移動者数}) \\ &\times (\text{市区町村別屋外人口密度}) \div 1,689.16 (\text{人/km}^2) \end{aligned}$$

表Ⅲ.2-26 死傷者率(内閣府(2025))

死者率	負傷者率	重傷者率
0.00116	0.04	0.0156

2) ブロック塀等の被害数

ブロック塀等の被害数は、木造住宅棟数の塀件数比率や地表加速度、被害率を使用した以下の式より算出した。

$$(\text{ブロック塀等の箇所数}) = (\text{木造住宅棟数}) \times (\text{塀件数比率})$$

(ブロック塀等の被害数)

$$= (\text{ブロック塀等の件数}) \times (\text{転倒対象となる塀の割合}) \times (\text{地表最大加速度別被害率})$$

3) 塀件数比率

塀件数比率は表Ⅲ.2-27の数値を使用した。

表Ⅲ.2-27 塀件数比率(内閣府(2025))

ブロック塀	石塀	コンクリート塀
16.0%	2.7%	1.6%

4) 倒壊対象となる塀の割合

内閣府(2025)では、各塀の危険度調査(外見調査)の結果から特に改善の必要がない塀の比率の半分は改訂耐震基準を十分満たし、倒壊の危険性はないと判断し、倒壊対象となる塀の割合を表Ⅲ.2-28のように設定されている。本調査においても、本割合を使用し、算出した。

表Ⅲ.2-28 倒壊対象となる塀の割合（東京都（1997））

塀の種類	外見調査の結果、特に改善の必要が無い塀の比率 (A)	転倒対象となる割合 (1-0.5×A)
ブロック塀	0.500	0.750
石塀	0.362	0.819
コンクリート塀	0.576	0.712

5) 被害率

計測震度を地表最大加速度に換算し、昭和 53 年（1978 年）宮城県沖地震時の被害実態に基づく以下の関係式より地表最大加速度を使用してブロック塀等の被害率を算定した。地表最大加速度と計測震度の関係式は平成 8 年童・山崎「地震強さ指標と新しい気象庁震度との対応関係」によるものである。

$$(\text{ブロック塀被害率}) = -12.6 + 0.07 \times (\text{地表最大加速度 (gal)})$$

$$(\text{石塀被害率}) = -26.6 + 0.168 \times (\text{地表最大加速度 (gal)})$$

$$(\text{コンクリート塀被害率}) = -12.6 + 0.07 \times (\text{地表最大加速度 (gal)})$$

$$(\text{地表最大加速度 (gal)}) = 10^{((\text{計測震度} - 0.59) \div 1.89)}$$

表Ⅲ.2-29 係数の意味

意味	係数
地表最大加速度の増加量に対する被害の増加率	0.07、0.168
地表最大加速度ゼロのときの被害率	-12.6、-26.6

(2) 自動販売機の転倒による人的被害の想定手法

転倒対象となる割合は、内閣府（2025）に基づき、屋外設置比率（6割）に転倒防止装置未対応率（約1割）を乗じて設定した。

自動販売機の転倒による被害は、既往災害等による被害事例や被害想定手法の検討例は存在しないため、ブロック塀の転倒による死傷者関係式を使用した。また、ブロック塀と自動販売機の幅の違いによる死傷者率の違いを考慮した。さらに昭和 53 年（1978 年）宮城県沖地震の発生時間帯に対する移動者数の比率を考慮し、仙台市の移動者数屋外人口密度（1,689.16 人/km<sup>2</sup>）を基に本県の市区町村における屋外人口密度に応じて補正した。

$$\begin{aligned}
 &(\text{死傷者数}) \\
 &= (\text{死傷者率}) \times (\text{自動販売機転倒数}) \\
 &\times (\text{市区町村別時刻別移動者数}) \div (\text{市区町村別 18 時移動者数}) \\
 &\times (\text{市区町村別屋外人口密度}) \div 1,689.16 (\text{人/km}^2)
 \end{aligned}$$

### 第Ⅲ編 被害想定

#### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

##### 1) 自動販売機の転倒による死傷者率

自動販売機の転倒による死傷者率（転倒1件当たり死傷者数）は、ブロック塀等の転倒と同じ値を使用するが、自動販売機とブロック塀の幅の平均長の比（1：12.2）によって補正した。

死傷者率は、表Ⅲ.2-30の数値を使用した。

表Ⅲ.2-30 死傷者率（内閣府（2025））

死傷者率	負傷者率	重傷者率
0.00116	0.04	0.0156

##### 2) 県内の自動販売機台数の想定

県内の自動販売機台数は、以下に示す式により算出した。

（県内の自動販売機台数）

$$= (\text{全国自動販売機台数}) \times ((\text{市区町村別夜間人口}) + (\text{市区町村別昼間人口})) \\ \div ((\text{全国夜間人口}) + (\text{全国昼間人口}))$$

全国夜間人口は、令和2年国勢調査（総務省統計局）より、126,146,099人とし、全国昼間人口は全国夜間人口と同じとした。

##### 3) 自動販売機の被害率

自動販売機の被害率は、平成7年（1995年）兵庫県南部地震の（概ね震度6弱以上の地域）転倒率である約20.9%（25,880台/124,100台<sup>※</sup>）とした。

※神戸市、西宮市、尼崎市、宝塚市、芦屋市、淡路島：全数調査

#### (3) 屋外落下物による人的被害の想定手法

屋外落下物による死傷者数は、落下が想定される建物周辺の屋外人口に死傷者率を乗じ、屋外人口密度により補正し、算出した。

（屋外落下物による死傷者数）

$$= (\text{死傷者率}) \times ((\text{市区町村別の屋外落下物が生じる建物棟数}) \div (\text{市区町村別建物棟数}) \\ \times (\text{市区町村別時刻別移動者数})) \\ \times ((\text{市区町村別屋外人口密度}) \div 1689.16(\text{人}/\text{km}^2))$$

##### 1) 死傷者率

死傷者率は、内閣府（2025）に基づき、表Ⅲ.2-31に示す屋外落下による死傷者率を使用した。

表Ⅲ. 2-31 屋外落下物による死傷者率 (内閣府 (2025) )

震度階	死者率	負傷者率	重傷者率
7	0.00504%	1.69%	0.0816%
6強	0.00388%	1.21%	0.0624%
6弱	0.00239%	0.700%	0.0383%
5強	0.000604%	0.0893%	0.00945%
5弱以下	0%	0%	0%

2) 屋外落下物が生じる建物棟数

屋外落下物の発生は、全壊する建物と全壊しない建物に分けて想定した。

揺れによって全壊屋外落下物が生じる建物棟数する建物では、その全てで落下物が発生するものとした。揺れによって全壊しない建物では、3階以上の非木造建物棟数に、落下物を保有する建物棟数比率と建物改修率や建物未改修率を乗じ、屋外落下物が想定される建物棟数を算出した。

(屋外落下物が生じる建物棟数)

$$= \{ (\text{揺れによる全壊建物数}) + ((\text{揺れにより全壊しない非木造建物棟数}) \times (\text{3階以上建物比率}) \times (\text{落下危険性のある屋外落下物を保有する建物棟数比率}) \times (1 - (\text{建物改修率})) \} \times (\text{落下率})$$

3) 落下危険性のある屋外落下物を保有する建物棟数比率

落下危険性のある屋外落下物を保有する建物棟数比率は、内閣府 (2025) に基づき、表Ⅲ. 2-32に示す東京都 (1997) の調査結果を使用した。

表Ⅲ. 2-32 落下危険性のある屋外落下物を保有する建物棟数比率 (東京都 (1997) )

建築年代	飛散物 (窓ガラス、壁面等)	飛散物 (吊り看板等)
～昭和 45 年	30%	17%
昭和 46 年～55 年	6%	8%
昭和 56 年～	0%	3%

4) 建物改修率

建物改修率は、内閣府 (2025) に基づき、東京都 (1997) で使用している平均改修率 87%を使用した。

5) 落下率

落下物の発生が想定される建物のうち落下が生じる建物の割合 (落下率) は、内閣府 (2025) に基づき、東京都 (1997) で設定されたブロック塀の被害率と同じ式を使用した。

$$(\text{落下率}(\%)) = -12.6 + 0.07 \times (\text{地表加速度}(\text{gal}))$$

$$(\text{地表加速度}(\text{gal})) = 10^{((\text{計測震度}) - 0.59) \div 1.89}$$

## 第Ⅲ編 被害想定

### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

#### 6) 屋外落下物が生じる建物周辺の時刻別屋外人口

落下物が生じる建物周辺の時刻別屋外人口は、夜間・昼間人口及び時間帯別行動者率等により求めた。

#### 2.7.3 想定結果

想定地震のブロック塀や自動販売機等の転倒、屋外落下物等による被害を表Ⅲ.2-33に示す。計算に使用した人口は、季節・時間帯によって数値が異なるため、各季節・時間帯のケースで被害数が異なる。

想定結果表の市区町村毎の算定値は、四捨五入することにより整数化して表しているため、算定値を集計したものとは必ずしも一致しない点に留意が必要である。「-」の表記は、「わずか」を示す。

表Ⅲ. 2-33 ブロック塀や自動販売機等の転倒、屋外落下物等による死傷者数  
【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】 (人)

市区町村	冬5時			夏12時			冬18時		
	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者
北九州市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
門司区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
若松区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
戸畑区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小倉北区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小倉南区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八幡東区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八幡西区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡市	-	-	-	-	約 60	約 20	-	約 300	約 100
東区	-	-	-	-	-	-	-	約 40	約 20
博多区	-	-	-	-	-	-	-	約 50	約 20
中央区	-	-	-	-	-	-	-	約 40	約 20
南区	-	-	-	-	約 20	-	-	約 90	約 40
西区	-	-	-	-	-	-	-	約 20	-
城南区	-	-	-	-	-	-	-	約 40	約 20
早良区	-	-	-	-	約 10	-	-	約 50	約 20
大牟田市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
久留米市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
直方市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
飯塚市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
田川市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
柳川市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八女市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
筑後市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大川市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
行橋市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
豊前市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小郡市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
筑紫野市	-	-	-	-	-	-	-	約 10	-
春日市	-	-	-	-	約 10	-	-	約 70	約 30
大野城市	-	-	-	-	約 10	-	-	約 50	約 20
宗像市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
太宰府市	-	-	-	-	-	-	-	約 30	約 10
古賀市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福津市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うきは市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮若市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
嘉麻市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
朝倉市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
みやま市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
糸島市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
那珂川市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宇美町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
篠栗町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
志免町	-	-	-	-	-	-	-	約 10	-
須恵町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新宮町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
久山町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
粕屋町	-	-	-	-	-	-	-	約 10	-
芦屋町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
水巻町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡垣町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
遠賀町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小竹町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鞍手町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
桂川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
筑前町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東峰村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大木町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香春町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
添田町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
糸田町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川崎町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大任町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
赤村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福智町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
荻田町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
みやこ町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
吉富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上毛町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
築上町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	約 100	約 40	約 20	約 600	約 200

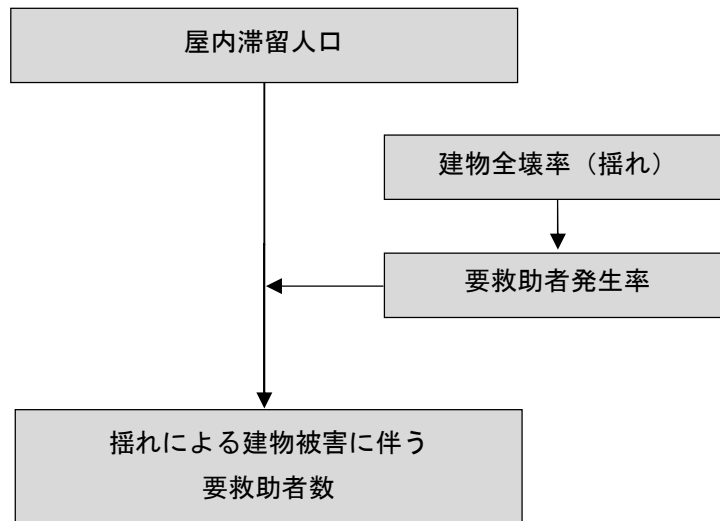
### 第Ⅲ編 被害想定

#### 2. 人的被害想定(想定手法、結果)

##### 2.8 揺れによる建物被害に伴う要救助者数の想定

建物倒壊によって下敷き・生き埋めになった人のうち、自力で脱出した人を除き、家族、親戚、近所の人、消防団、警察及び消防等により救出される人数を揺れによる建物被害に伴う要救助者数として想定する。

###### 2.8.1 揺れによる建物被害に伴う要救助者数の想定の流れ



図Ⅲ. 2-13 揺れによる建物被害に伴う要救助者数想定フロー（内閣府（2025）を基に作成）

###### 2.8.2 揺れによる建物被害に伴う要救助者数の想定手法

内閣府（2025）に基づき、平成7年（1995年）兵庫県南部地震時における建物全壊率と救助が必要となる人数を使用した「静岡県第3次地震被害想定」（以下、「静岡県（2000）」という。）や東京都（1997）の手法を参考にして、揺れによる建物被害に伴う要救助者数を算定した。なお、揺れによる建物全壊率は本調査結果に基づくものである。

$$\begin{aligned} & \text{(揺れによる建物被害に伴う要救助者数(木造/非木造))} \\ & = 0.117 \times (\text{揺れによる建物全壊率}) \times (\text{屋内滞留人口}) \end{aligned}$$

表Ⅲ. 2-34 係数の意味

意味	係数
全壊建物内人口のうち要救助者となる割合	0.117

### 2.8.3 揺れによる建物被害に伴う要救助者数の想定結果

想定地震の揺れによる建物被害に伴う要救助者数を表Ⅲ.2-35に示す。計算に使用した人口は、季節・時間帯によって数値が異なるため、各季節・時間帯のケースで被害数が異なる。

想定結果表の市区町村毎の算定値は、四捨五入することにより整数化して表しているため、算定値を集計したものとは必ずしも一致しない点に留意が必要である。「-」の表記は、「わずか」を示す。

### 第Ⅲ編 被害想定

#### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ. 2-35 揺れによる建物被害に伴う要救助者数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】 (人)

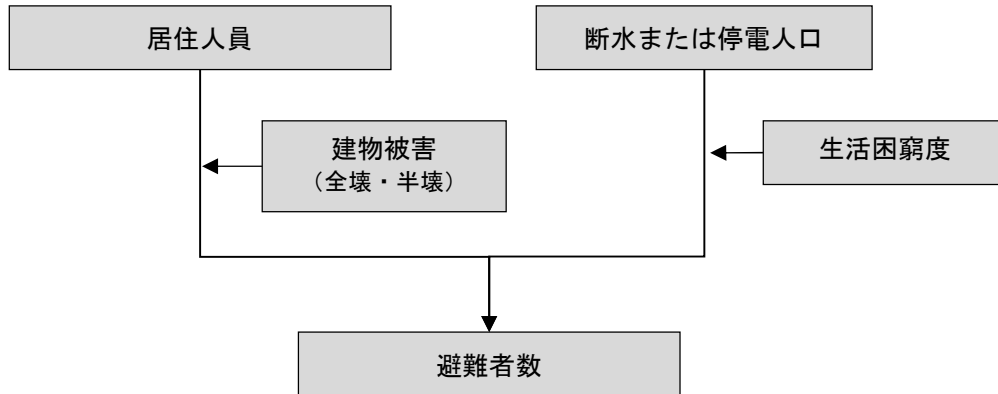
市区町村	冬5時	夏12時	冬18時
北九州市	0	0	0
門司区	0	0	0
若松区	0	0	0
戸畑区	0	0	0
小倉北区	0	0	0
小倉南区	0	0	0
八幡東区	0	0	0
八幡西区	0	0	0
福岡市	約 9,400	約 9,000	約 8,600
東区	約 1,400	約 1,100	約 1,100
博多区	約 2,200	約 2,600	約 2,300
中央区	約 1,500	約 1,700	約 1,500
南区	約 2,000	約 1,600	約 1,600
西区	約 600	約 400	約 400
城南区	約 500	約 400	約 400
早良区	約 1,300	約 1,200	約 1,200
大牟田市	0	0	0
久留米市	約 600	約 500	約 500
直方市	0	0	0
飯塚市	-	-	-
田川市	0	0	0
柳川市	約 20	約 10	約 10
八女市	-	-	-
筑後市	0	0	0
大川市	約 20	約 10	約 10
行橋市	0	0	0
豊前市	0	0	0
中間市	0	0	0
小郡市	約 200	約 100	約 100
筑紫野市	約 600	約 500	約 500
春日市	約 1,000	約 800	約 800
大野城市	約 700	約 700	約 600
宗像市	0	-	-
太宰府市	約 1,000	約 1,200	約 1,000
古賀市	-	-	-
福津市	-	-	-
うきは市	-	-	-
宮若市	-	-	-
嘉麻市	0	0	0
朝倉市	約 70	約 80	約 70
みやま市	0	0	0
糸島市	約 20	約 20	約 20
那珂川市	約 300	約 200	約 200
宇美町	約 50	約 40	約 40
篠栗町	約 40	約 30	約 30
志免町	約 300	約 300	約 300
須恵町	約 100	約 100	約 100
新宮町	-	-	-
久山町	-	-	-
粕屋町	約 500	約 500	約 500
芦屋町	0	0	0
水巻町	0	0	0
岡垣町	0	0	0
遠賀町	0	0	0
小竹町	0	0	0
鞍手町	0	0	0
桂川町	0	0	0
筑前町	-	-	-
東峰村	0	0	0
大刀洗町	約 200	約 200	約 200
大木町	-	-	-
広川町	0	0	0
香春町	0	0	0
添田町	0	0	0
糸田町	0	0	0
川崎町	0	0	0
大任町	0	0	0
赤村	0	0	0
福智町	0	0	0
荊田町	0	0	0
みやこ町	0	0	0
吉富町	0	0	0
上毛町	0	0	0
築上町	0	0	0
合計	約 15,000	約 14,000	約 14,000

## 2.9 避難者数の想定

避難者の想定は、内閣府（2025）に基づき、液状化、揺れ、急傾斜地崩壊及び火災による建物被害を受けた住宅の居住者や、断水あるいは停電の世帯人員を対象とした。

なお、避難者における避難所避難者及び避難所外避難者の内訳、ライフライン停止時生活困窮度は、平成7年（1995年）兵庫県南部地震等の事例に基づき、時間とともに推移するものとした。

### 2.9.1 避難者数の想定の流れ



図Ⅲ.2-14 避難者数（発災直後）想定フロー（内閣府（2025）を基に作成）

### 2.9.2 避難者数の想定手法

避難者数は、建物被害と断水人口、1棟当たりの平均居住者数及び断水時生活困窮度より、発災当日、1週間後、1か月後の避難者数を算出する。

$$\begin{aligned}
 & \text{(避難者数)} \\
 & = ((\text{全壊棟数}) + 0.5 \times (\text{半壊棟数})) \times (1 \text{棟あたり平均人員}) \\
 & + (\text{断水または停電人口}) \times (\text{ライフライン停止時生活困窮度}) \\
 & \text{(避難所避難者)} : \text{(避難所外避難者)} = 60 : 40 \text{ (発災当日)} \\
 & \qquad \qquad \qquad 50 : 50 \text{ (1週間後)} \\
 & \qquad \qquad \qquad 30 : 70 \text{ (1か月後)}
 \end{aligned}$$

表Ⅲ.2-36 係数の意味

意味	係数
半壊建物の居住者のうち避難者となる割合	0.5

※1:断水・停電人口は、自宅建物被害を原因とする避難者を除く断水あるいは停電世帯人員を示す。

※2:ライフライン停止時生活困窮度とは、ライフライン停止が継続されることにより自宅で生活し続けることが困難となる度合いを表したものである。時間とともにこの度合いは大きくなり、平成7年（1995年）兵庫県南部地震の事例では、水が入手可能ならば、自宅の被害が大きくない場合は、自宅で生活し、半壊の場合でも水道が復旧すると避難所から自宅に帰っていた。逆に断水の場合には断水時生活困窮度が増し、自宅での生活が難しいため、避難所で生活していた。

断水時（発災当日）0.0 ⇒ （1週間後） 0.25 ⇒ （1か月後） 0.90  
 停電時（発災当日）0.0 ⇒ （1週間後） 0.25 ⇒ （1か月後） 0.50

## 第Ⅲ編 被害想定

### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

#### 2.9.3 避難者数の想定結果

##### (1) 避難者数の想定結果表

想定地震の発災当日、1週間及び1か月後の避難者数を表Ⅲ.2-37～表Ⅲ.2-39に示す。計算に使用した建物被害や停電人口・断水人口は、季節・時間帯・風速によって数値が異なるため、季節・時間帯・風速のケースで被害数が異なる。

想定結果表の市区町村毎の算定値は、四捨五入することにより整数化して表しているため、算定値を集計したものとは必ずしも一致しない点に留意が必要である。「-」の表記は、「わずか」を示す。

第Ⅲ編 被害想定  
2.人の被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ. 2-37 全避難者数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】(冬5時) (人)

市区町村	強風			平均風速		
	発災当日	1週間後	1か月後	発災当日	1週間後	1か月後
北九州市	約 900	約 900	約 900	約 900	約 900	約 900
門司区	-	-	-	-	-	-
若松区	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10
戸畑区	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
小倉北区	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
小倉南区	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
八幡東区	-	-	-	-	-	-
八幡西区	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100
福岡市	約 200,000	約 222,000	約 217,000	約 194,000	約 216,000	約 211,000
東区	約 32,000	約 35,000	約 34,000	約 32,000	約 35,000	約 34,000
博多区	約 47,000	約 52,000	約 52,000	約 47,000	約 52,000	約 51,000
中央区	約 32,000	約 34,000	約 33,000	約 32,000	約 34,000	約 33,000
南区	約 42,000	約 49,000	約 48,000	約 37,000	約 44,000	約 43,000
西区	約 22,000	約 23,000	約 23,000	約 21,000	約 23,000	約 22,000
城南区	約 7,600	約 8,300	約 8,100	約 7,600	約 8,300	約 8,100
早良区	約 17,000	約 20,000	約 19,000	約 17,000	約 20,000	約 19,000
大牟田市	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300
久留米市	約 22,000	約 22,000	約 22,000	約 22,000	約 22,000	約 22,000
直方市	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700
飯塚市	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100
田川市	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200
柳川市	約 4,700	約 4,700	約 4,700	約 4,700	約 4,700	約 4,700
八女市	約 60	約 60	約 60	約 60	約 60	約 60
筑後市	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300
大川市	約 5,900	約 6,000	約 6,000	約 5,900	約 6,000	約 6,000
行橋市	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100
豊前市	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100
中間市	約 70	約 70	約 70	約 70	約 70	約 70
小郡市	約 4,300	約 4,400	約 4,300	約 4,300	約 4,300	約 4,300
筑紫野市	約 8,400	約 9,000	約 8,800	約 8,300	約 8,900	約 8,700
春日市	約 21,000	約 21,000	約 21,000	約 20,000	約 20,000	約 20,000
大野城市	約 12,000	約 12,000	約 12,000	約 12,000	約 12,000	約 12,000
宗像市	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200
太宰府市	約 16,000	約 17,000	約 17,000	約 16,000	約 16,000	約 16,000
古賀市	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700
福津市	約 1,200	約 1,200	約 1,200	約 1,200	約 1,200	約 1,200
うきは市	約 500	約 500	約 500	約 500	約 500	約 500
宮若市	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200
嘉麻市	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100
朝倉市	約 2,100	約 2,100	約 2,100	約 2,100	約 2,100	約 2,100
みやま市	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000
糸島市	約 1,600	約 1,600	約 1,600	約 1,600	約 1,600	約 1,600
那珂川市	約 5,100	約 5,800	約 5,700	約 5,000	約 5,700	約 5,500
宇美町	約 1,900	約 1,900	約 1,900	約 1,900	約 1,900	約 1,900
篠栗町	約 1,200	約 1,200	約 1,200	約 1,200	約 1,200	約 1,200
志免町	約 9,100	約 9,400	約 9,300	約 8,800	約 9,100	約 9,000
須恵町	約 2,400	約 2,900	約 2,700	約 2,400	約 2,900	約 2,700
新宮町	約 500	約 500	約 500	約 500	約 500	約 500
久山町	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100
粕屋町	約 7,300	約 7,300	約 7,300	約 7,300	約 7,300	約 7,300
芦屋町	-	-	-	-	-	-
水巻町	約 80	約 80	約 80	約 80	約 80	約 80
岡垣町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
遠賀町	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
小竹町	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200
鞍手町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
桂川町	約 70	約 70	約 70	約 70	約 70	約 70
筑前町	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
東峰村	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	約 3,500	約 3,600	約 3,600	約 3,400	約 3,600	約 3,500
大木町	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
広川町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
香春町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
添田町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
糸田町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
川崎町	-	-	-	-	-	-
大任町	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
赤村	-	-	-	-	-	-
福智町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
苅田町	約 50	約 50	約 50	約 50	約 50	約 50
みやこ町	-	-	-	-	-	-
吉富町	0	-	0	0	-	0
上毛町	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10
築上町	-	-	-	-	-	-
合計	約 340,000	約 365,000	約 359,000	約 331,000	約 356,000	約 351,000

### 第Ⅲ編 被害想定

#### 2.人的被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ.2-38 全避難者数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】(夏12時) (人)

市区町村	強風			平均風速		
	発災当日	1週間後	1か月後	発災当日	1週間後	1か月後
北九州市	約 900	約 900	約 900	約 900	約 900	約 900
門司区	-	-	-	-	-	-
若松区	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10
戸畑区	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
小倉北区	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
小倉南区	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300
八幡東区	-	-	-	-	-	-
八幡西区	約 90	約 90	約 90	約 90	約 90	約 90
福岡市	約 218,000	約 239,000	約 234,000	約 213,000	約 234,000	約 230,000
東区	約 28,000	約 30,000	約 29,000	約 28,000	約 30,000	約 29,000
博多区	約 66,000	約 71,000	約 70,000	約 65,000	約 70,000	約 69,000
中央区	約 50,000	約 52,000	約 52,000	約 49,000	約 52,000	約 51,000
南区	約 34,000	約 41,000	約 40,000	約 31,000	約 38,000	約 37,000
西区	約 16,000	約 17,000	約 16,000	約 16,000	約 17,000	約 16,000
城南区	約 6,100	約 6,800	約 6,600	約 6,100	約 6,800	約 6,600
早良区	約 18,000	約 21,000	約 20,000	約 18,000	約 21,000	約 20,000
大牟田市	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300
久留米市	約 22,000	約 22,000	約 22,000	約 21,000	約 22,000	約 22,000
直方市	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700
飯塚市	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000
田川市	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200
柳川市	約 3,900	約 3,900	約 3,900	約 3,900	約 3,900	約 3,900
八女市	約 50	約 50	約 50	約 50	約 50	約 50
筑後市	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300
大川市	約 5,600	約 5,700	約 5,700	約 5,600	約 5,700	約 5,700
行橋市	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000
豊前市	約 90	約 90	約 90	約 90	約 90	約 90
中間市	約 60	約 60	約 60	約 60	約 60	約 60
小郡市	約 3,100	約 3,200	約 3,200	約 3,100	約 3,200	約 3,200
筑紫野市	約 6,800	約 7,500	約 7,300	約 6,800	約 7,400	約 7,200
春日市	約 16,000	約 16,000	約 16,000	約 15,000	約 15,000	約 15,000
大野城市	約 14,000	約 14,000	約 14,000	約 14,000	約 14,000	約 14,000
宗像市	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100
太宰府市	約 20,000	約 21,000	約 20,000	約 19,000	約 20,000	約 20,000
古賀市	約 600	約 600	約 600	約 600	約 600	約 600
福津市	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100
うきは市	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
宮若市	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200
嘉麻市	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100
朝倉市	約 2,300	約 2,400	約 2,400	約 2,300	約 2,400	約 2,400
みやま市	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000
糸島市	約 1,400	約 1,400	約 1,400	約 1,400	約 1,400	約 1,400
那珂川市	約 4,700	約 5,400	約 5,300	約 4,500	約 5,300	約 5,100
宇美町	約 1,500	約 1,600	約 1,600	約 1,500	約 1,600	約 1,600
篠栗町	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000
志免町	約 9,100	約 9,400	約 9,300	約 8,800	約 9,100	約 9,000
須恵町	約 3,000	約 3,500	約 3,300	約 3,000	約 3,500	約 3,300
新宮町	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700
久山町	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200
粕屋町	約 9,500	約 9,500	約 9,500	約 9,500	約 9,500	約 9,500
芦屋町	-	-	-	-	-	-
水巻町	約 90	約 90	約 90	約 90	約 90	約 90
岡垣町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
遠賀町	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
小竹町	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200
鞍手町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
桂川町	約 70	約 70	約 70	約 70	約 70	約 70
筑前町	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
東峰村	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	約 3,900	約 4,000	約 4,000	約 3,900	約 4,000	約 4,000
大木町	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
広川町	約 40	約 40	約 40	約 40	約 40	約 40
香春町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
添田町	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
糸田町	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
川崎町	-	-	-	-	-	-
大任町	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
赤村	-	-	-	-	-	-
福智町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
苅田町	約 60	約 60	約 60	約 60	約 60	約 60
みやこ町	-	-	-	-	-	-
吉富町	0	-	0	0	-	0
上毛町	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10
築上町	-	-	-	-	-	-
合計	約 357,000	約 381,000	約 376,000	約 349,000	約 374,000	約 369,000

第Ⅲ編 被害想定  
2.人の被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ.2-39 全避難者数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】(冬18時) (人)

市区町村	強風			平均風速		
	発災当日	1週間後	1か月後	発災当日	1週間後	1か月後
北九州市	約 900	約 900	約 900	約 900	約 900	約 900
門司区	-	-	-	-	-	-
若松区	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10
戸畑区	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
小倉北区	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
小倉南区	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
八幡東区	-	-	-	-	-	-
八幡西区	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100
福岡市	約 221,000	約 228,000	約 226,000	約 211,000	約 233,000	約 228,000
東区	約 32,000	約 33,000	約 33,000	約 32,000	約 34,000	約 33,000
博多区	約 61,000	約 62,000	約 62,000	約 59,000	約 64,000	約 63,000
中央区	約 42,000	約 43,000	約 43,000	約 42,000	約 45,000	約 44,000
南区	約 40,000	約 41,000	約 40,000	約 35,000	約 42,000	約 41,000
西区	約 19,000	約 20,000	約 20,000	約 19,000	約 20,000	約 19,000
城南区	約 6,700	約 7,000	約 7,000	約 6,700	約 7,400	約 7,200
早良区	約 20,000	約 22,000	約 21,000	約 18,000	約 20,000	約 20,000
大牟田市	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300
久留米市	約 23,000	約 23,000	約 23,000	約 22,000	約 22,000	約 22,000
直方市	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700
飯塚市	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100
田川市	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200
柳川市	約 4,600	約 4,600	約 4,600	約 4,400	約 4,400	約 4,400
八女市	約 60	約 60	約 60	約 60	約 60	約 60
筑後市	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300	約 300
大川市	約 5,800	約 5,800	約 5,800	約 5,800	約 5,800	約 5,800
行橋市	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000
豊前市	約 90	約 90	約 90	約 90	約 90	約 90
中間市	約 70	約 70	約 70	約 70	約 70	約 70
小郡市	約 3,700	約 3,800	約 3,700	約 3,600	約 3,700	約 3,700
筑紫野市	約 7,800	約 8,000	約 7,900	約 7,600	約 8,300	約 8,100
春日市	約 18,000	約 18,000	約 18,000	約 18,000	約 18,000	約 18,000
大野城市	約 14,000	約 14,000	約 14,000	約 14,000	約 14,000	約 14,000
宗像市	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200
太宰府市	約 21,000	約 21,000	約 21,000	約 19,000	約 20,000	約 20,000
古賀市	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700
福津市	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100
うきは市	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
宮若市	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200
嘉麻市	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100
朝倉市	約 2,200	約 2,300	約 2,300	約 2,200	約 2,300	約 2,300
みやま市	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000
糸島市	約 1,500	約 1,500	約 1,500	約 1,500	約 1,500	約 1,500
那珂川市	約 5,000	約 5,000	約 5,000	約 4,800	約 5,500	約 5,400
宇美町	約 1,700	約 1,700	約 1,700	約 1,700	約 1,700	約 1,700
篠栗町	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100
志免町	約 10,000	約 10,000	約 10,000	約 9,400	約 9,700	約 9,600
須恵町	約 5,000	約 5,100	約 5,000	約 3,900	約 4,400	約 4,200
新宮町	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700	約 700
久山町	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100	約 100
粕屋町	約 8,600	約 8,600	約 8,600	約 8,600	約 8,600	約 8,600
芦屋町	-	-	-	-	-	-
水巻町	約 80	約 80	約 80	約 80	約 80	約 80
岡垣町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
遠賀町	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
小竹町	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200	約 200
鞍手町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
桂川町	約 70	約 70	約 70	約 70	約 70	約 70
筑前町	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
東峰村	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	約 3,700	約 4,100	約 4,000	約 3,700	約 3,800	約 3,800
大木町	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400	約 400
広川町	約 40	約 40	約 40	約 40	約 40	約 40
香春町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
添田町	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
糸田町	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
川崎町	-	-	-	-	-	-
大任町	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
赤村	-	-	-	-	-	-
福智町	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
苅田町	約 60	約 60	約 60	約 60	約 60	約 60
みやこ町	-	-	-	-	-	-
吉富町	0	0	0	0	-	0
上毛町	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10
築上町	-	-	-	-	-	-
合計	約 369,000	約 377,000	約 374,000	約 353,000	約 378,000	約 372,000

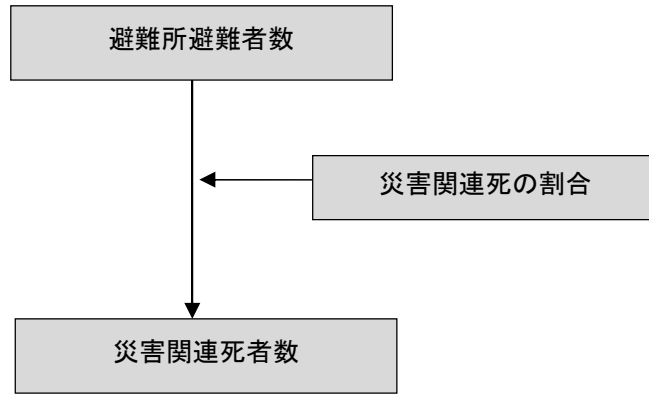
### 第Ⅲ編 被害想定

#### 2. 人的被害想定(想定手法、結果)

##### 2. 10 災害関連死者数の想定

災害を起因とする肉体・精神的負担、疲労、初期治療の遅れ及び既往症の増悪等により発生する災害関連死者数を想定した。

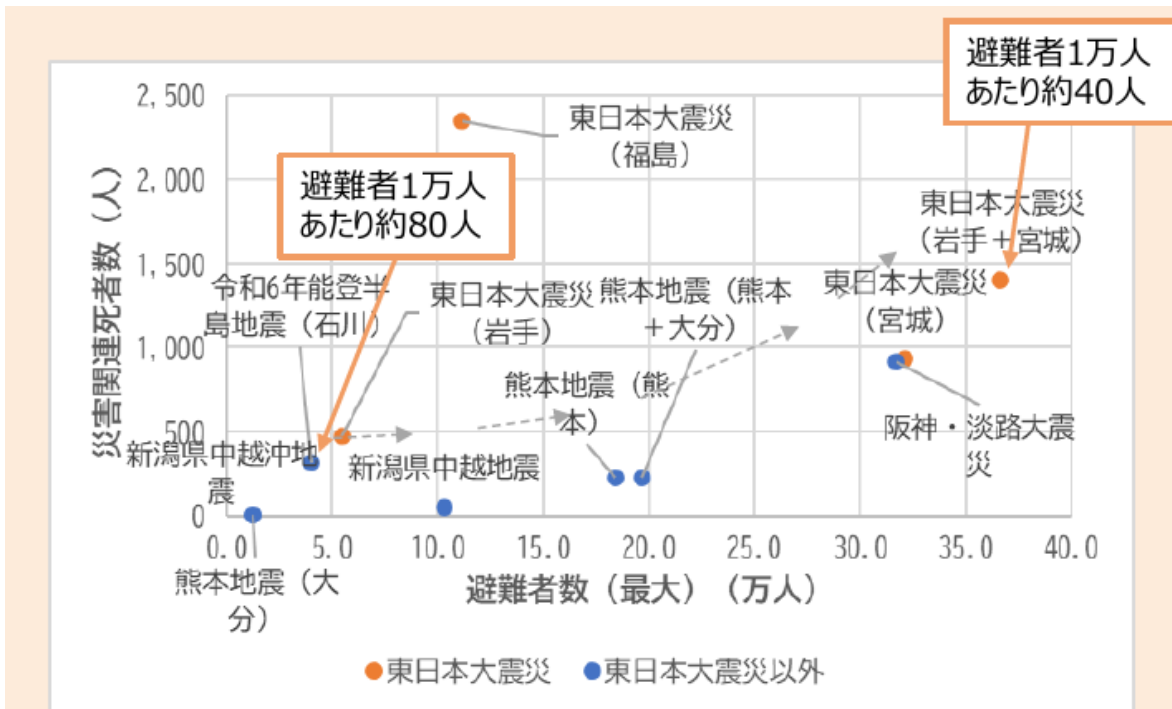
##### 2. 10. 1 災害関連死者数の想定の流れ



図Ⅲ. 2-15 災害関連死者数想定フロー (内閣府 (2025) を基に作成)

##### 2. 10. 2 災害関連死者数の想定手法

内閣府 (2025) に基づき、平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震 (岩手県・宮城県) における災害関連死者数と最大避難者数から、「2.9 避難者数の想定」の1週間後避難所避難者数の結果に対して、避難者1万人あたり40人の災害関連死が発生するものとして、災害関連死者数を算出した。



図Ⅲ. 2-16 避難者に対する災害関連死比率 (内閣府 (2025) )

### 2.10.3 災害関連死者数の想定結果

想定地震の災害関連死者数を表Ⅲ.2-40に示す。計算に使用した避難所避難者数は、季節・時間帯・風速によって数値が異なるため、季節・時間帯・風速のケースで被害数が異なる。

想定結果表の市区町村毎の算定値は、四捨五入することにより整数化して表しているため、算定値を集計したものとは必ずしも一致しない点に留意が必要である。「-」の表記は、「わずか」を示す。

第Ⅲ編 被害想定

2.人的被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ. 2-40 災害関連死の想定数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】 (人)

市区町村	冬5時		夏12時		冬18時	
	強風	平均風速	強風	平均風速	強風	平均風速
北九州市	-	-	-	-	-	-
門司区	-	-	-	-	-	-
若松区	-	-	-	-	-	-
戸畑区	-	-	-	-	-	-
小倉北区	-	-	-	-	-	-
小倉南区	-	-	-	-	-	-
八幡東区	-	-	-	-	-	-
八幡西区	-	-	-	-	-	-
福岡市	約 500	約 500	約 500	約 500	約 500	約 500
東区	約 80	約 80	約 70	約 70	約 80	約 80
博多区	約 100	約 100	約 200	約 200	約 100	約 100
中央区	約 80	約 80	約 100	約 100	約 100	約 100
南区	約 100	約 90	約 80	約 80	約 100	約 80
西区	約 50	約 50	約 40	約 40	約 50	約 40
城南区	約 20	約 20	約 10	約 10	約 20	約 20
早良区	約 40	約 40	約 40	約 40	約 50	約 40
大牟田市	-	-	-	-	-	-
久留米市	約 50	約 50	約 50	約 50	約 50	約 50
直方市	-	-	-	-	-	-
飯塚市	-	-	-	-	-	-
田川市	-	-	-	-	-	-
柳川市	約 10	約 10	-	-	約 10	約 10
八女市	-	-	-	-	-	-
筑後市	-	-	-	-	-	-
大川市	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10
行橋市	-	-	-	-	-	-
豊前市	-	-	-	-	-	-
中間市	-	-	-	-	-	-
小郡市	約 10	約 10	-	-	-	-
筑紫野市	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
春日市	約 50	約 50	約 40	約 40	約 40	約 40
大野城市	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30	約 30
宗像市	-	-	-	-	-	-
太宰府市	約 40	約 40	約 50	約 50	約 50	約 50
古賀市	-	-	-	-	-	-
福津市	-	-	-	-	-	-
うきは市	-	-	-	-	-	-
宮若市	-	-	-	-	-	-
嘉麻市	-	-	-	-	-	-
朝倉市	-	-	-	-	-	-
みやま市	-	-	-	-	-	-
糸島市	-	-	-	-	-	-
那珂川市	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10
宇美町	-	-	-	-	-	-
篠栗町	-	-	-	-	-	-
志免町	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
須恵町	-	-	-	-	約 10	-
新宮町	-	-	-	-	-	-
久山町	-	-	-	-	-	-
粕屋町	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20	約 20
芦屋町	-	-	-	-	-	-
水巻町	-	-	-	-	-	-
岡垣町	-	-	-	-	-	-
遠賀町	-	-	-	-	-	-
小竹町	-	-	-	-	-	-
鞍手町	-	-	-	-	-	-
桂川町	-	-	-	-	-	-
筑前町	-	-	-	-	-	-
東峰村	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	-	-	-	-	-	-
大木町	-	-	-	-	-	-
広川町	-	-	-	-	-	-
香春町	-	-	-	-	-	-
添田町	-	-	-	-	-	-
糸田町	-	-	-	-	-	-
川崎町	-	-	-	-	-	-
大任町	-	-	-	-	-	-
赤村	-	-	-	-	-	-
福智町	-	-	-	-	-	-
苅田町	-	-	-	-	-	-
みやこ町	-	-	-	-	-	-
吉富町	-	-	-	-	0	-
上毛町	-	-	-	-	-	-
築上町	-	-	-	-	-	-
合計	約 800	約 800	約 900	約 800	約 900	約 800

## 2.11人的被害のまとめ

想定地震の建物倒壊、急傾斜地崩壊、火災及びブロック塀等の転倒・自動販売機の転倒・屋外落下物による死者数・負傷者数・重傷者数の合計を表Ⅲ.2-41～表Ⅲ.2-43に示す。計算に使用した人口や建物被害は、季節・時間帯・風速によって数値が異なるため、各季節・時間帯・風速のケースで被害数が異なる。

想定結果表の市区町村毎の算定値は、四捨五入することにより整数化して表しているため、算定値を集計したものとは必ずしも一致しない点に留意が必要である。「-」の表記は、「わずか」を示す。

第Ⅲ編 被害想定

2.人的被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ. 2-41 死傷者想定数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】(冬5時) (人)

市区町村	冬5時					
	強風			平均風速		
	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者
北九州市	-	-	-	-	-	-
門司区	-	-	-	-	-	-
若松区	-	-	-	-	-	-
戸畑区	-	-	-	-	-	-
小倉北区	-	-	-	-	-	-
小倉南区	-	-	-	-	-	-
八幡東区	-	-	-	-	-	-
八幡西区	-	-	-	-	-	-
福岡市	約 1,000	約 6,000	約 1,200	約 900	約 5,900	約 1,100
東区	約 100	約 1,100	約 200	約 100	約 1,100	約 200
博多区	約 100	約 1,100	約 200	約 100	約 1,100	約 200
中央区	約 70	約 600	約 100	約 70	約 600	約 100
南区	約 500	約 1,400	約 300	約 400	約 1,400	約 300
西区	約 80	約 700	約 100	約 70	約 600	約 90
城南区	約 30	約 400	約 50	約 30	約 400	約 50
早良区	約 90	約 800	約 200	約 90	約 800	約 200
大牟田市	-	-	-	-	-	-
久留米市	約 200	約 1,600	約 300	約 200	約 1,600	約 300
直方市	-	-	-	-	-	-
飯塚市	-	約 30	-	-	約 30	-
田川市	-	-	-	-	-	-
柳川市	-	約 200	-	-	約 200	-
八女市	-	-	-	-	-	-
筑後市	-	約 40	-	-	約 40	-
大川市	約 20	約 300	約 30	約 20	約 300	約 30
行橋市	-	-	-	-	-	-
豊前市	-	-	-	-	-	-
中間市	-	-	-	-	-	-
小郡市	約 50	約 500	約 80	約 50	約 500	約 80
筑紫野市	約 80	約 700	約 100	約 80	約 700	約 100
春日市	約 200	約 1,600	約 300	約 200	約 1,600	約 300
大野城市	約 100	約 1,000	約 200	約 100	約 1,000	約 200
宗像市	-	約 10	-	-	約 10	-
太宰府市	約 200	約 1,400	約 300	約 200	約 1,400	約 300
古賀市	-	約 10	-	-	約 10	-
福津市	-	-	-	-	-	-
うきは市	-	約 100	-	-	約 100	-
宮若市	-	-	-	-	-	-
嘉麻市	-	-	-	-	-	-
朝倉市	約 30	約 400	約 40	約 30	約 400	約 40
みやま市	-	約 20	-	-	約 20	-
糸島市	-	約 200	約 10	-	約 200	約 10
那珂川市	約 50	約 400	約 70	約 50	約 400	約 70
宇美町	-	約 200	約 20	-	約 200	約 20
篠栗町	-	約 100	約 20	-	約 100	約 20
志免町	約 60	約 500	約 100	約 60	約 500	約 100
須恵町	約 20	約 300	約 40	約 20	約 300	約 40
新宮町	-	約 20	-	-	約 20	-
久山町	-	約 10	-	-	約 10	-
粕屋町	約 60	約 500	約 100	約 60	約 500	約 100
芦屋町	-	-	-	-	-	-
水巻町	-	-	-	-	-	-
岡垣町	-	-	-	-	-	-
遠賀町	-	-	-	-	-	-
小竹町	-	-	-	-	-	-
鞍手町	-	-	-	-	-	-
桂川町	-	-	-	-	-	-
筑前町	-	約 80	-	-	約 80	-
東峰村	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	約 80	約 500	約 100	約 70	約 500	約 100
大木町	-	約 20	-	-	約 20	-
広川町	-	-	-	-	-	-
香春町	-	-	-	-	-	-
添田町	-	-	-	-	-	-
糸田町	-	-	-	-	-	-
川崎町	-	-	-	-	-	-
大任町	-	-	-	-	-	-
赤村	-	-	-	-	-	-
福智町	-	-	-	-	-	-
荻田町	-	-	-	-	-	-
みやこ町	-	-	-	-	-	-
吉富町	-	-	-	-	-	-
上毛町	-	-	-	-	-	-
築上町	-	-	-	-	-	-
合計	約 2,300	約 17,000	約 3,000	約 2,100	約 17,000	約 3,000

第Ⅲ編 被害想定  
2.人の被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ.2-42 死傷者想定数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】(夏12時) (人)

市区町村	夏12時					
	強風			平均風速		
	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者
北九州市	-	-	-	-	-	-
門司区	-	-	-	-	-	-
若松区	-	-	-	-	-	-
戸畑区	-	-	-	-	-	-
小倉北区	-	-	-	-	-	-
小倉南区	-	-	-	-	-	-
八幡東区	-	-	-	-	-	-
八幡西区	-	-	-	-	-	-
福岡市	約 800	約 5,000	約 900	約 700	約 5,000	約 900
東区	約 90	約 900	約 100	約 90	約 900	約 100
博多区	約 100	約 900	約 200	約 100	約 900	約 200
中央区	約 70	約 500	約 100	約 70	約 500	約 100
南区	約 300	約 1,200	約 300	約 300	約 1,200	約 200
西区	約 50	約 600	約 80	約 50	約 600	約 80
城南区	約 20	約 300	約 50	約 20	約 300	約 50
早良区	約 70	約 700	約 100	約 70	約 700	約 100
大牟田市	-	-	-	-	-	-
久留米市	約 200	約 1,400	約 200	約 200	約 1,400	約 200
直方市	-	-	-	-	-	-
飯塚市	-	約 50	-	-	約 50	-
田川市	-	-	-	-	-	-
柳川市	-	約 200	-	-	約 200	-
八女市	-	約 10	-	-	約 10	-
筑後市	-	約 50	-	-	約 50	-
大川市	約 20	約 300	約 30	約 20	約 300	約 30
行橋市	-	-	-	-	-	-
豊前市	-	-	-	-	-	-
中間市	-	-	-	-	-	-
小郡市	約 40	約 400	約 60	約 40	約 400	約 60
筑紫野市	約 70	約 600	約 100	約 70	約 600	約 100
春日市	約 200	約 1,300	約 300	約 200	約 1,300	約 200
大野城市	約 100	約 900	約 200	約 100	約 900	約 200
宗像市	-	約 20	-	-	約 20	-
太宰府市	約 200	約 1,200	約 300	約 200	約 1,100	約 300
古賀市	-	約 20	-	-	約 20	-
福津市	-	約 10	-	-	約 10	-
うきは市	-	約 100	-	-	約 100	-
官若市	-	-	-	-	-	-
嘉麻市	-	-	-	-	-	-
朝倉市	約 20	約 300	約 40	約 20	約 300	約 40
みやま市	-	約 30	-	-	約 30	-
糸島市	-	約 200	約 10	-	約 200	約 10
那珂川市	約 40	約 300	約 60	約 40	約 300	約 50
宇美町	-	約 200	約 20	-	約 200	約 20
篠栗町	-	約 100	約 10	-	約 100	約 10
志免町	約 50	約 400	約 80	約 50	約 400	約 80
須恵町	約 20	約 200	約 30	約 20	約 200	約 30
新宮町	-	約 30	-	-	約 30	-
久山町	-	約 20	-	-	約 20	-
粕屋町	約 50	約 400	約 80	約 50	約 400	約 80
芦屋町	-	-	-	-	-	-
水巻町	-	-	-	-	-	-
岡垣町	-	-	-	-	-	-
遠賀町	-	-	-	-	-	-
小竹町	-	-	-	-	-	-
鞍手町	-	-	-	-	-	-
桂川町	-	-	-	-	-	-
筑前町	-	約 80	-	-	約 80	-
東峰村	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	約 60	約 400	約 90	約 60	約 400	約 90
大木町	-	約 20	-	-	約 20	-
広川町	-	-	-	-	-	-
香春町	-	-	-	-	-	-
添田町	-	-	-	-	-	-
糸田町	-	-	-	-	-	-
川崎町	-	-	-	-	-	-
大任町	-	-	-	-	-	-
赤村	-	-	-	-	-	-
福智町	-	-	-	-	-	-
荻田町	-	-	-	-	-	-
みやこ町	-	-	-	-	-	-
吉富町	-	-	-	-	-	-
上毛町	-	-	-	-	-	-
築上町	-	-	-	-	-	-
合計	約 1,800	約 14,000	約 2,500	約 1,700	約 14,000	約 2,500

第Ⅲ編 被害想定

2.人的被害想定(想定手法、結果)

表Ⅲ. 2-43 死傷者想定数【小呂島近海断層帯+警固断層帯南東部】(冬18時) (人)

市区町村	冬18時					
	強風			平均風速		
	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者
北九州市	-	-	-	-	-	-
門司区	-	-	-	-	-	-
若松区	-	-	-	-	-	-
戸畑区	-	-	-	-	-	-
小倉北区	-	-	-	-	-	-
小倉南区	-	-	-	-	-	-
八幡東区	-	-	-	-	-	-
八幡西区	-	-	-	-	-	-
福岡市	約 1,000	約 5,500	約 1,100	約 900	約 5,400	約 1,100
東区	約 200	約 900	約 200	約 100	約 900	約 200
博多区	約 200	約 1,000	約 200	約 100	約 1,000	約 200
中央区	約 70	約 500	約 100	約 70	約 500	約 100
南区	約 500	約 1,400	約 300	約 400	約 1,300	約 300
西区	約 70	約 600	約 90	約 60	約 600	約 90
城南区	約 30	約 300	約 60	約 30	約 300	約 60
早良区	約 100	約 800	約 200	約 80	約 700	約 100
大牟田市	-	-	-	-	-	-
久留米市	約 200	約 1,400	約 300	約 200	約 1,400	約 300
直方市	-	-	-	-	-	-
飯塚市	-	約 40	-	-	約 40	-
田川市	-	-	-	-	-	-
柳川市	-	約 100	-	-	約 100	-
八女市	-	-	-	-	-	-
筑後市	-	約 50	-	-	約 50	-
大川市	約 20	約 300	約 30	約 20	約 300	約 30
行橋市	-	-	-	-	-	-
豊前市	-	-	-	-	-	-
中間市	-	-	-	-	-	-
小郡市	約 40	約 400	約 70	約 40	約 400	約 70
筑紫野市	約 80	約 600	約 100	約 80	約 600	約 100
春日市	約 200	約 1,400	約 300	約 200	約 1,400	約 300
大野城市	約 100	約 900	約 200	約 100	約 900	約 200
宗像市	-	約 10	-	-	約 10	-
太宰府市	約 300	約 1,200	約 300	約 200	約 1,200	約 300
古賀市	-	約 20	-	-	約 20	-
福津市	-	約 10	-	-	約 10	-
うきは市	-	約 90	-	-	約 90	-
宮若市	-	-	-	-	-	-
嘉麻市	-	-	-	-	-	-
朝倉市	約 40	約 300	約 40	約 40	約 300	約 40
みやま市	-	約 20	-	-	約 20	-
糸島市	-	約 200	約 10	-	約 200	約 10
那珂川市	約 40	約 300	約 60	約 40	約 300	約 60
宇美町	-	約 200	約 20	-	約 200	約 20
篠栗町	-	約 100	約 20	-	約 100	約 20
志免町	約 70	約 400	約 90	約 60	約 400	約 90
須恵町	約 60	約 300	約 40	約 40	約 200	約 40
新宮町	-	約 20	-	-	約 20	-
久山町	-	約 10	-	-	約 10	-
粕屋町	約 60	約 500	約 90	約 60	約 500	約 90
芦屋町	-	-	-	-	-	-
水巻町	-	-	-	-	-	-
岡垣町	-	-	-	-	-	-
遠賀町	-	-	-	-	-	-
小竹町	-	-	-	-	-	-
鞍手町	-	-	-	-	-	-
桂川町	-	-	-	-	-	-
筑前町	-	約 70	-	-	約 70	-
東峰村	-	-	-	-	-	-
大刀洗町	約 70	約 400	約 100	約 70	約 400	約 100
大木町	-	約 20	-	-	約 20	-
広川町	-	-	-	-	-	-
香春町	-	-	-	-	-	-
添田町	-	-	-	-	-	-
糸田町	-	-	-	-	-	-
川崎町	-	-	-	-	-	-
大任町	-	-	-	-	-	-
赤村	-	-	-	-	-	-
福智町	-	-	-	-	-	-
荻田町	-	-	-	-	-	-
みやこ町	-	-	-	-	-	-
吉富町	-	-	-	-	-	-
上毛町	-	-	-	-	-	-
築上町	-	-	-	-	-	-
合計	約 2,400	約 15,000	約 2,800	約 2,100	約 15,000	約 2,800